

男女共同参画意識に関する調査
報告書

平成31年3月
一宮市

市民アンケート調査結果

●調査概要

【調査目的】

- ・第2次一宮市男女共同参画計画の進み具合を確認するための指標を把握すること
- ・第3次一宮市男女共同参画計画を策定すること

【調査方法等】

- ・調査対象 一宮市内居住の18歳以上の男女 3,000人
- ・調査時期 平成30年4月
- ・抽出方法 無作為抽出法
- ・回収方法 郵送回収法

【回収結果】

送付数	回収数		有効回収率
	有効	無効	
3,000件	1,232件	0件	41.1%

【集計方法】

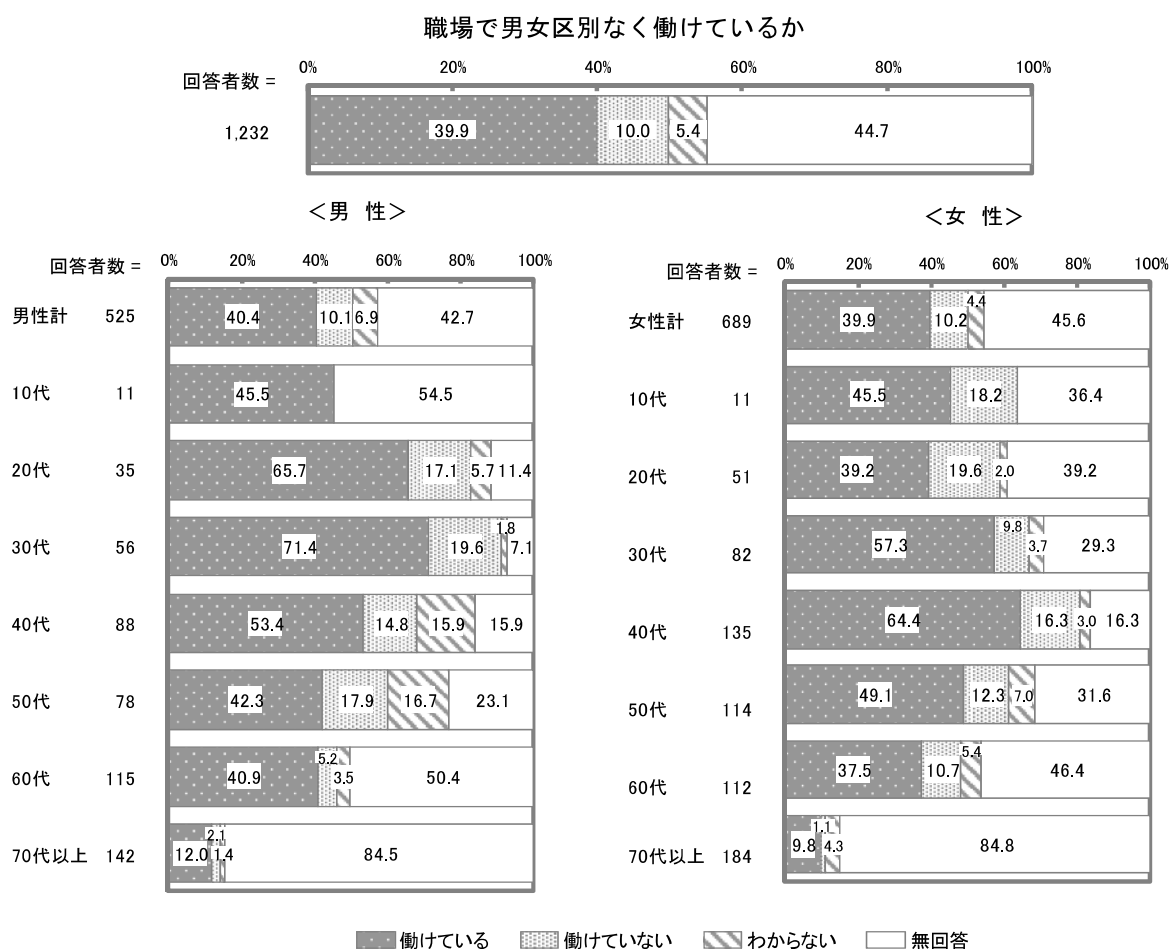
各質問項目について、各選択肢を選択した人数（n）を集計し、当該選択肢を選択した人の割合（％）を算出しました。

1 職場での男女共同参画

(1) 男女区別なく働けているか

全体では約 4 割の人が『男女区別なく働けている』と回答しています。

性・年代別では、20 代、30 代では、女性で男性よりも『男女区別なく働けている』と感じている人が少なく、特に 20 代女性では 4 割未満となっています。対して、40 代女性では『男女区別なく働けている』と感じている人が多く、6 割台半ばとなっています。



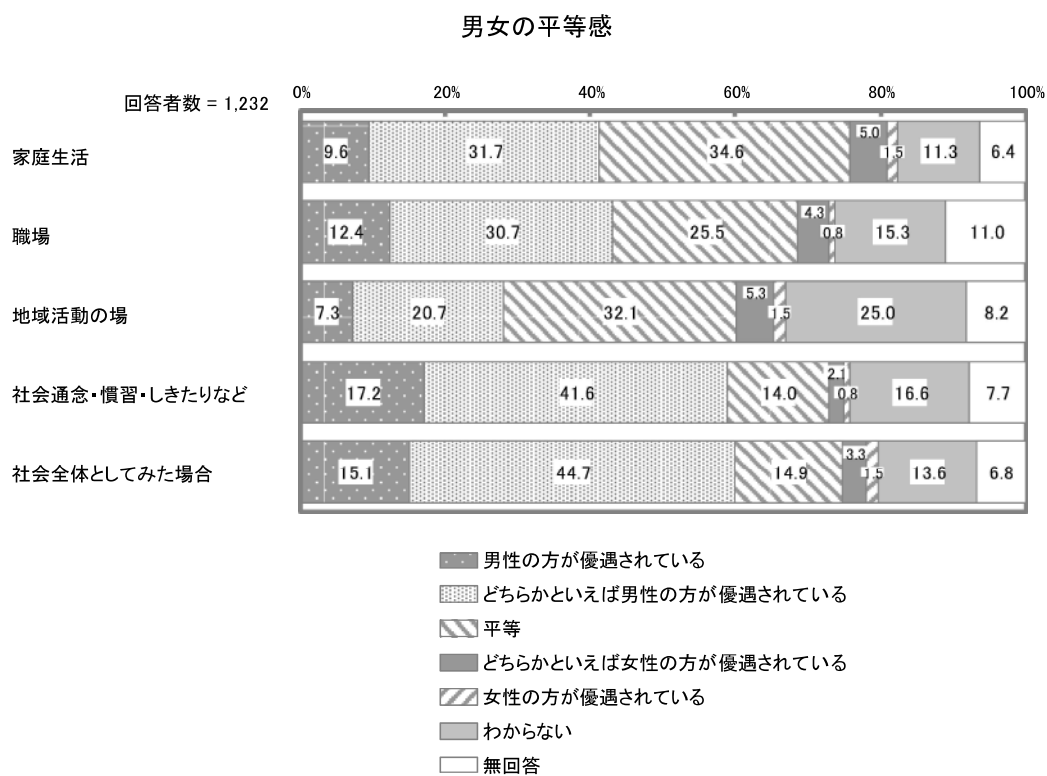
ポイント

○女性が社会で活躍するには、企業と連携しながら、意識改革や働きやすい環境整備などが必要です。

2 男女の平等感

(1) 男女の平等感 . . .

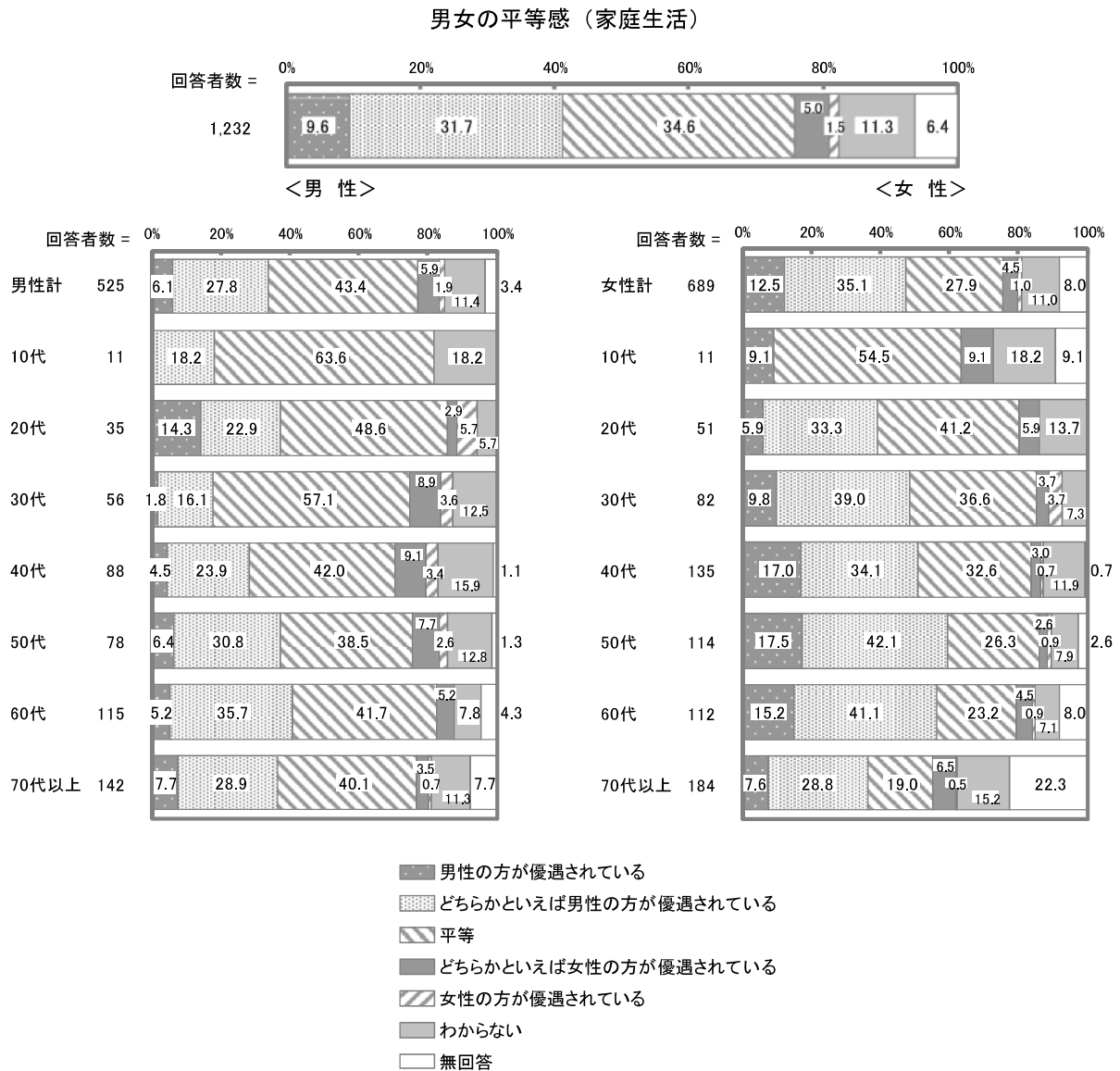
『家庭生活』、『地域活動の場』で「平等」と感じている人が多く、約3割となっています。一方、『社会通念・慣習・しきたりなど』、『社会全体としてみた場合』では、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と感じている人が多く、約6割となっています。



(2) 家庭生活

全体では、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と感じる人が多く、約4割となっています。

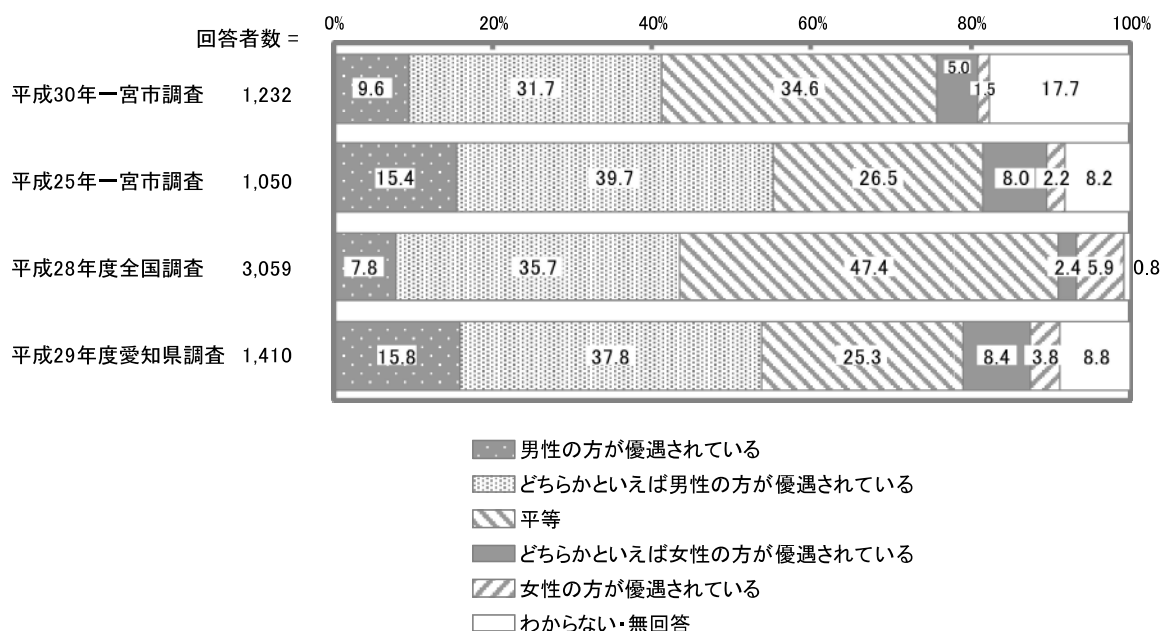
性・年代別では、30代から60代の女性で、同年代の男性より『男性優遇』と感じる人が多く、特に30代では約31ポイントの差がみられます。また、すべての年代で、女性より男性で「平等」と感じる人が多くなっています。



平成 25 年の一宮市調査と比較すると、「平等」と感じている人の割合が増加し、『男性優遇』、『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）と感じる人の割合は減少しています。

全国調査と比較すると、「平等」と感じている人の割合が低くなっています。愛知県調査と比較すると、「平等」と感じている人の割合は高く、『男性優遇』と感じている人の割合は低くなっています。

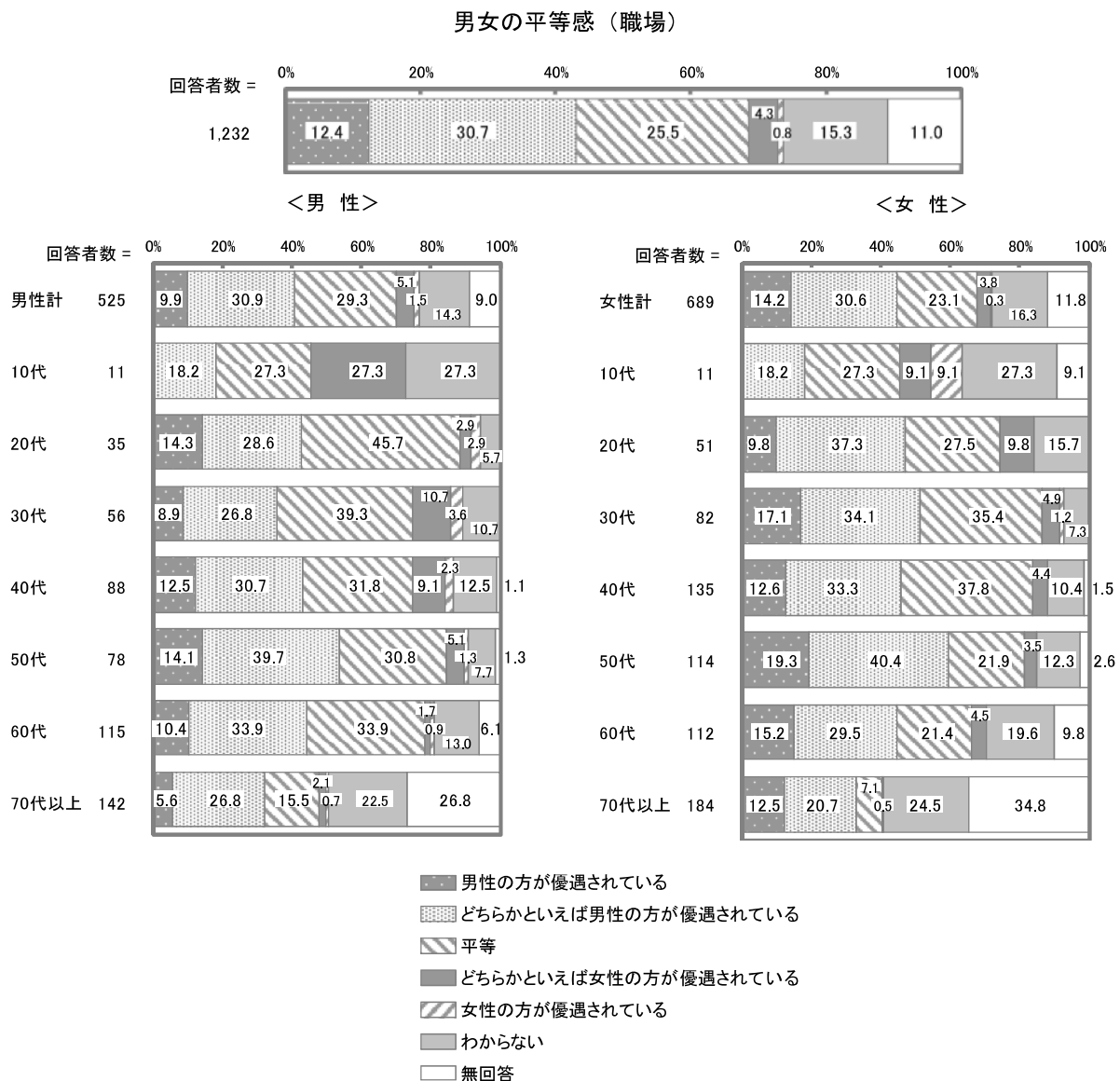
男女の平等感（家庭生活）



(3) 職場 . . .

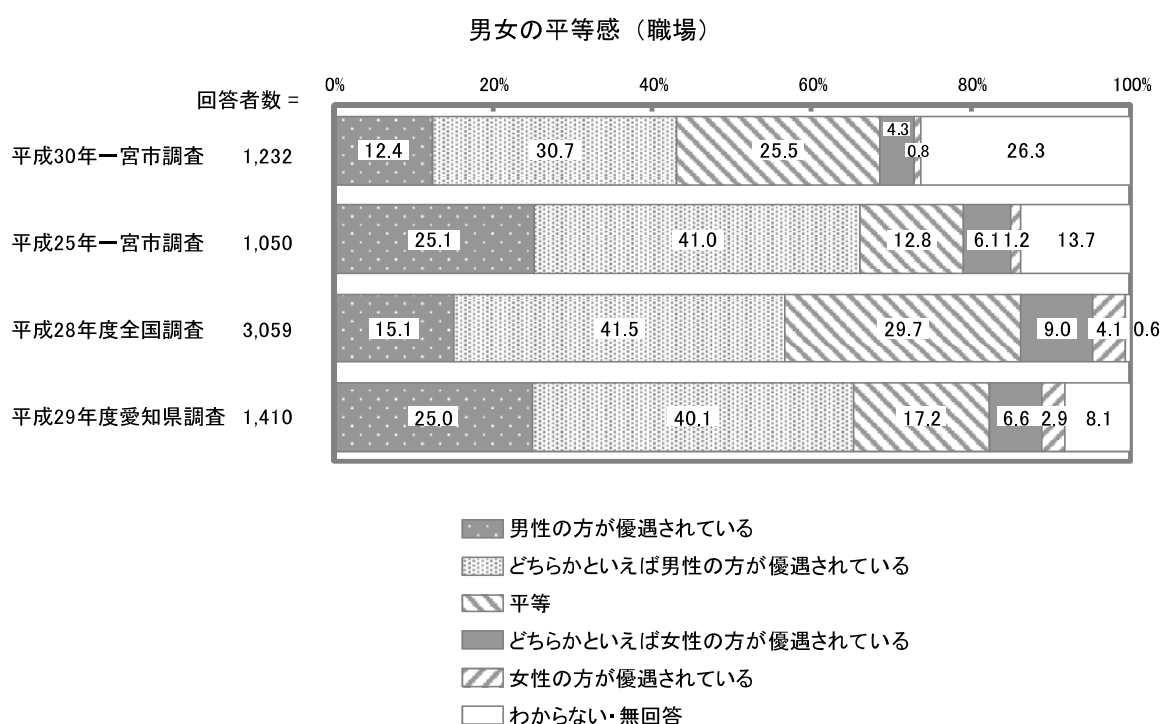
全体では『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と感じる人が約4割と多くなっています。

性・年代別では、50代の女性で、『男性優遇』と感じる人が、多くなっています。



平成 25 年の一宮市調査と比較すると、「平等」と感じている人の割合が増加し、『男性優遇』と感じる人の割合は減少しています。

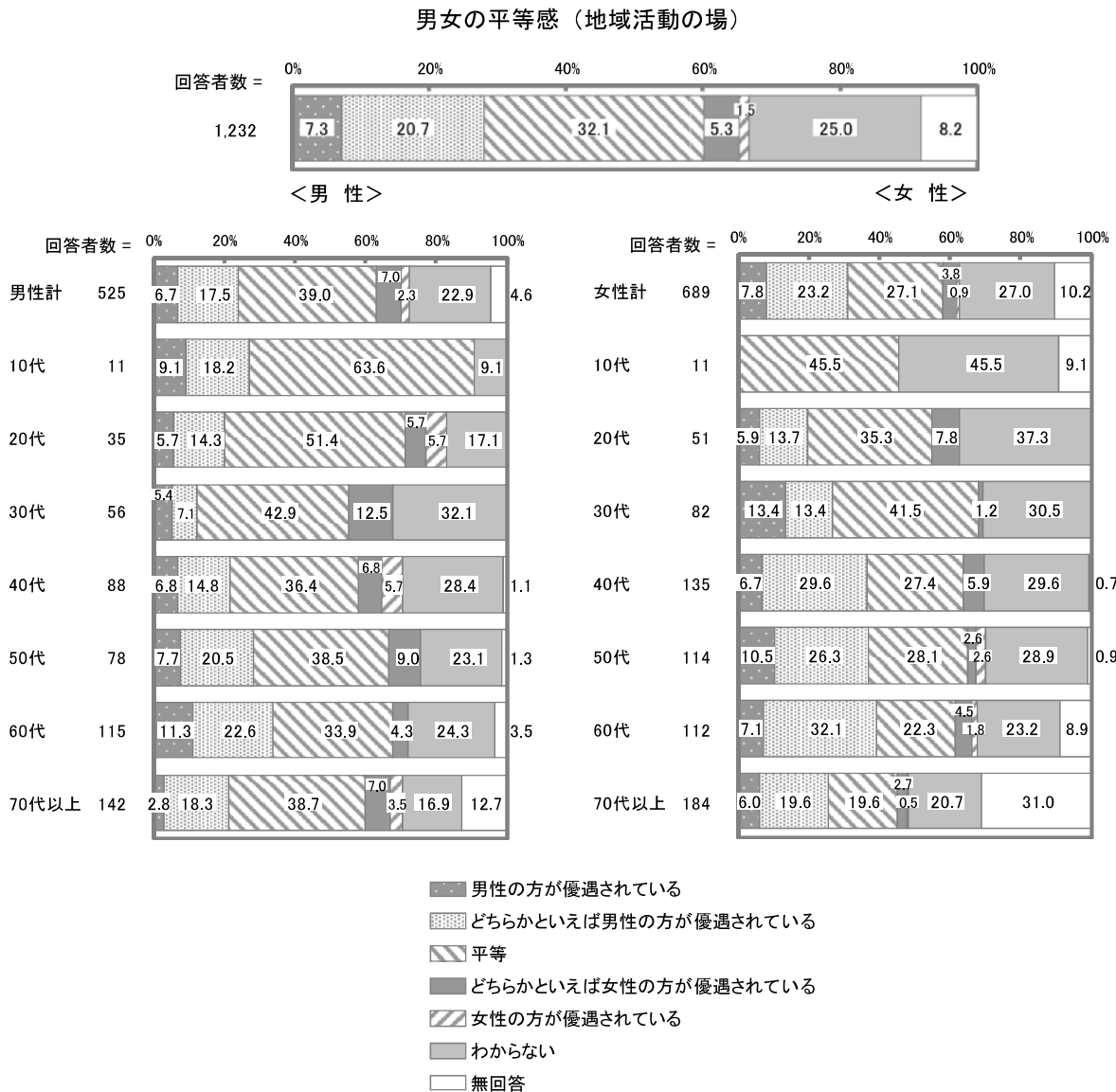
全国、愛知県調査と比較すると、『男性優遇』と感じている人の割合は低くなっています。



(4) 地域活動の場 . . .

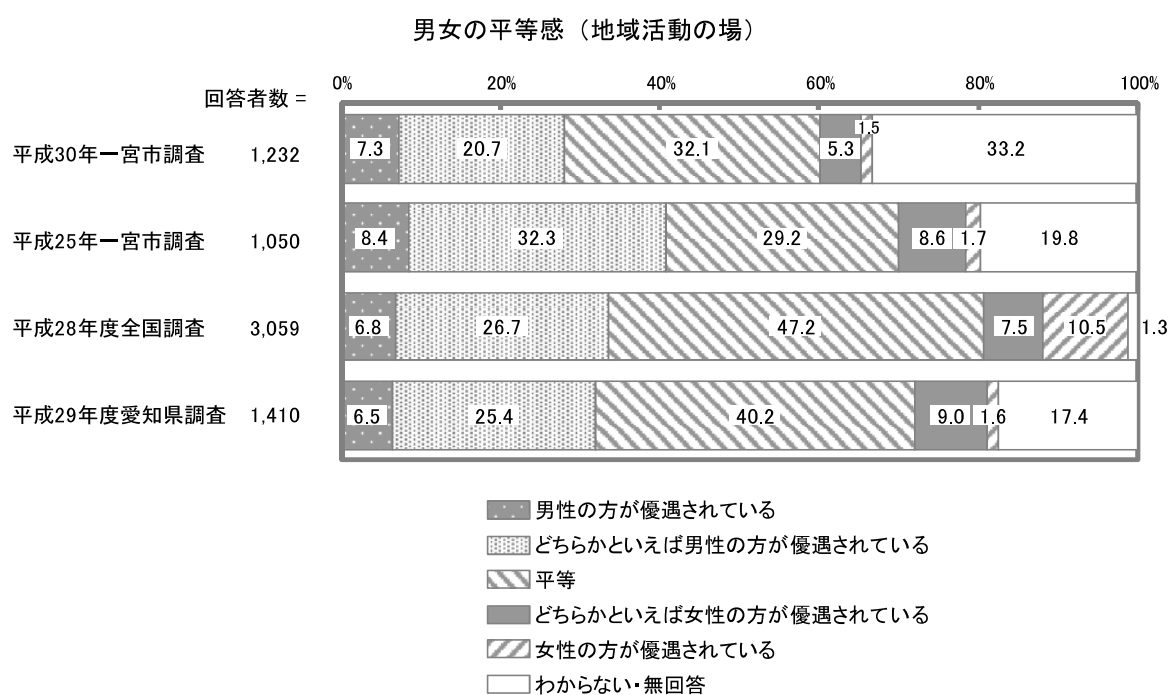
全体では、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と感じる人、「平等」と感じる人がどちらも約3割となっています。

性・年代別では、30代から60代の女性で、同年代の男性より『男性優遇』と感じる人が多くなっています。また、すべての年代で、男性で「平等」と感じる人が多くなっています。



平成 25 年の一宮市調査と比較すると、『男性優遇』、『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）と感じる人がともに減少し、「平等」と感じる人の割合は増加しています。

全国、愛知県調査と比較すると、「平等」と感じる人の割合は低くなっています。

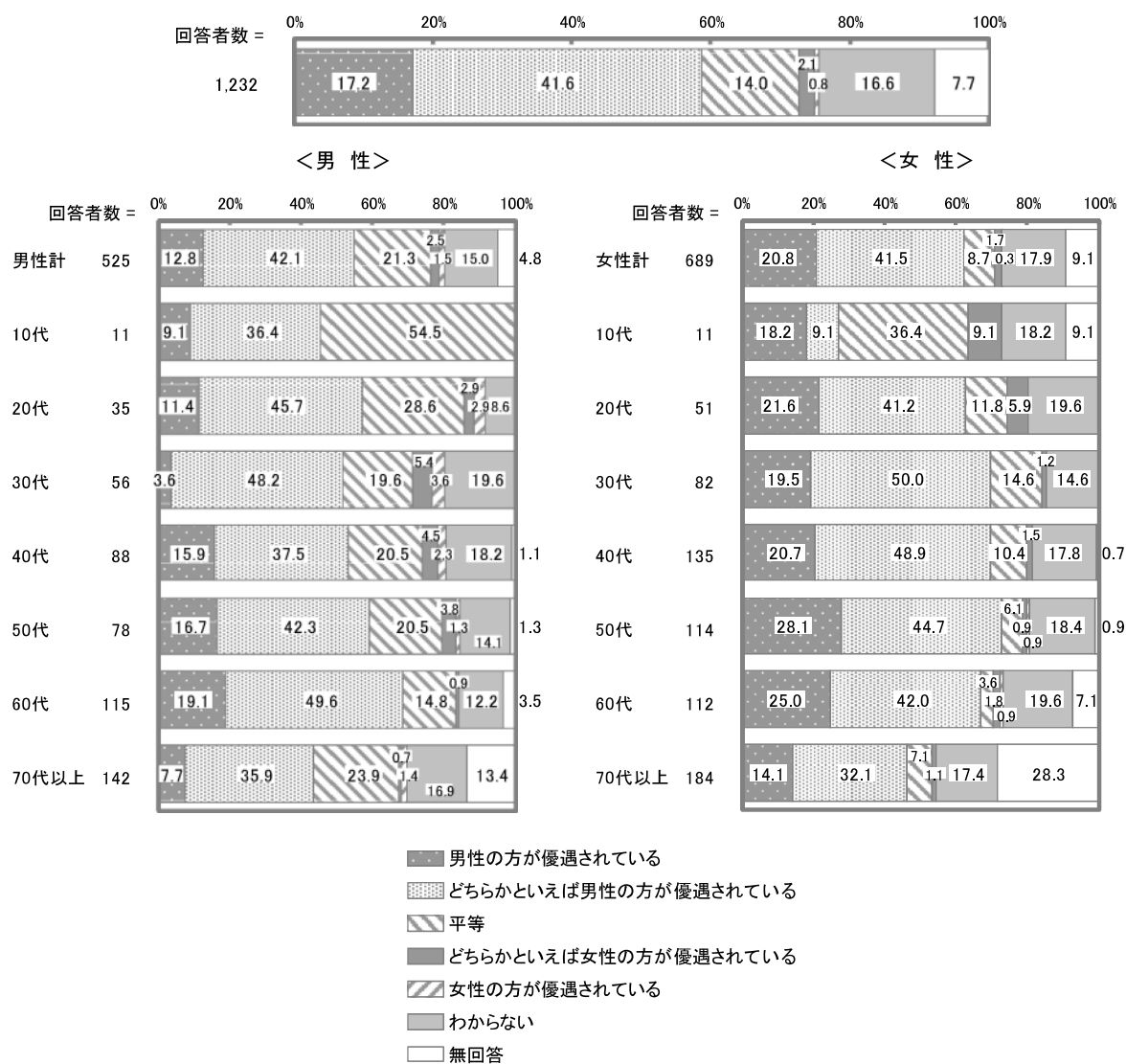


(5) 社会通念・慣習・しきたりなど . . .

全体では、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と感じる人が約6割と多くなっています。

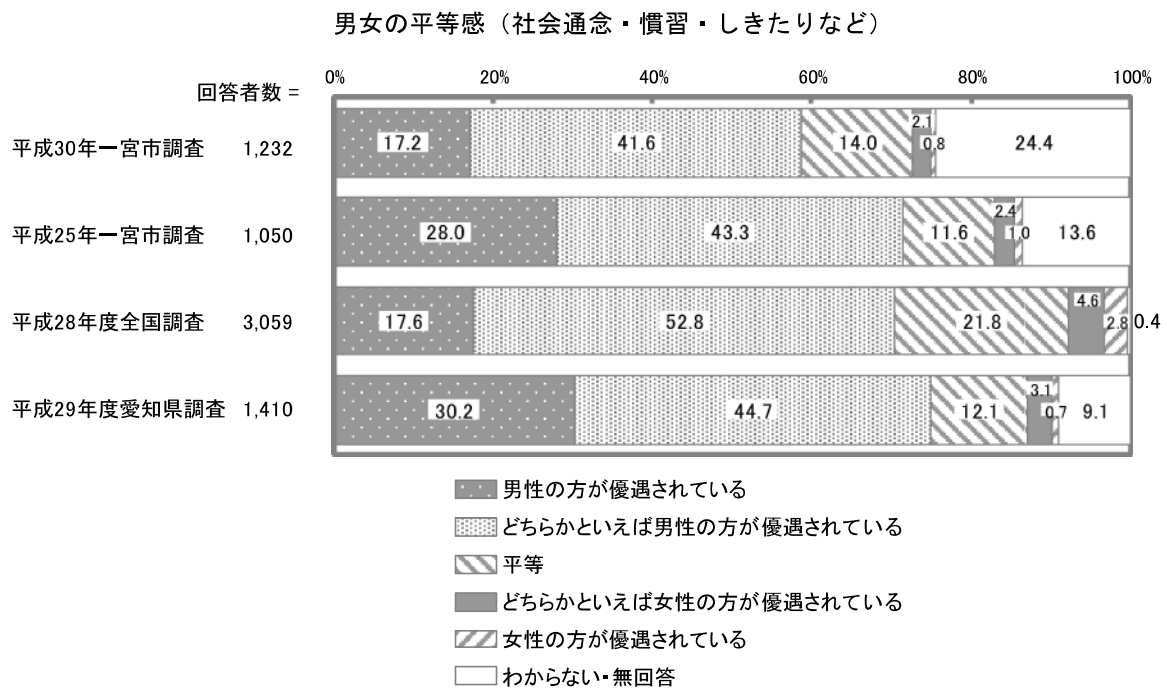
性・年代別では、20代から50代の女性で、同年代の男性よりも『男性優遇』と感じる人が多く、特に30代・40代で差が大きくなっています。対して、すべての年代の男性で、女性よりも「平等」と感じる人が多くなっています。

男女の平等感（社会通念・慣習・しきたりなど）



平成 25 年の一宮市調査と比較すると、『男性優遇』と感じる人が減少しています。

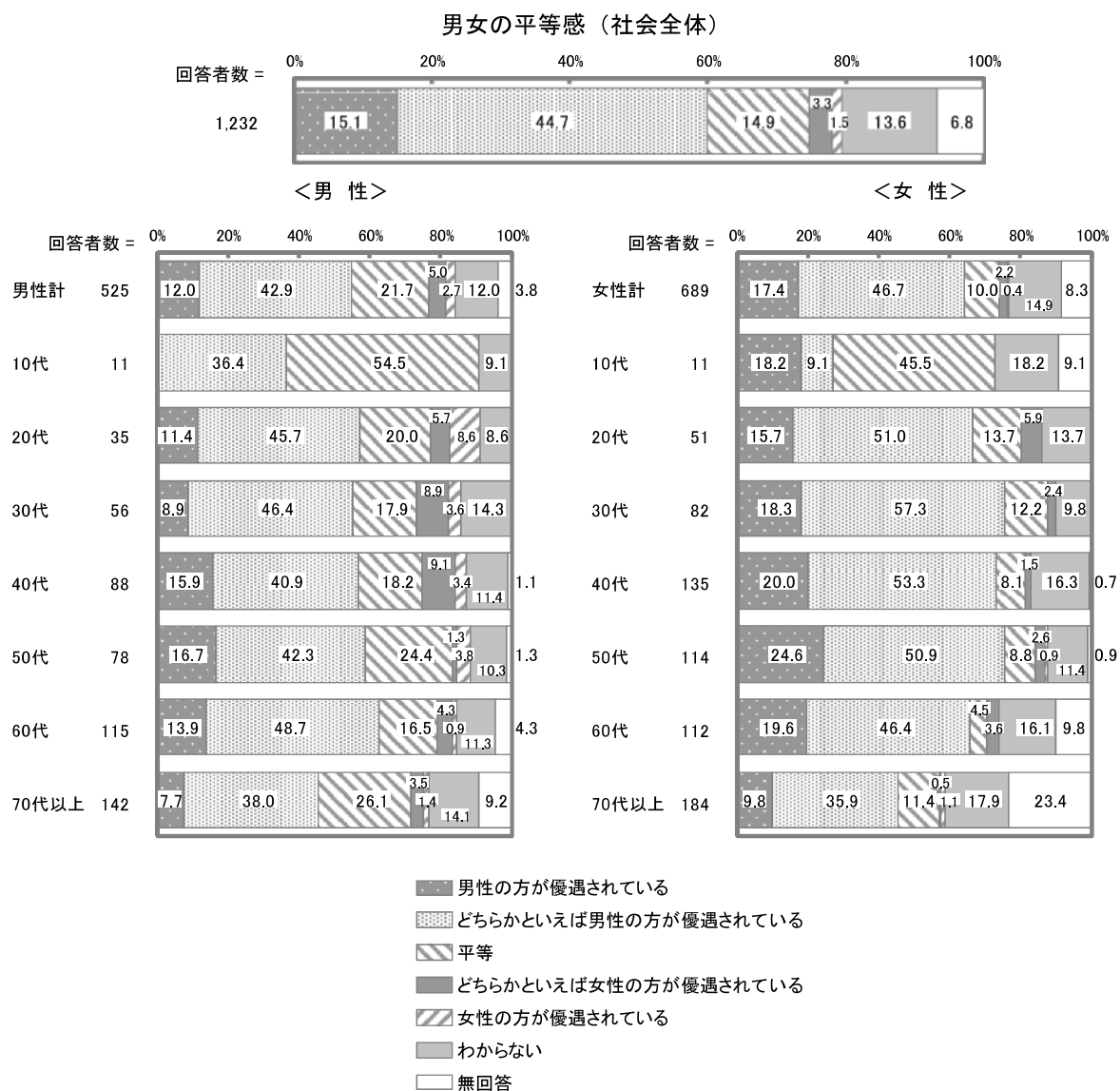
全国調査と比較すると、「平等」と感じる人の割合は低く、全国、愛知県調査と比較すると、『男性優遇』と感じる人の割合は低くなっています。



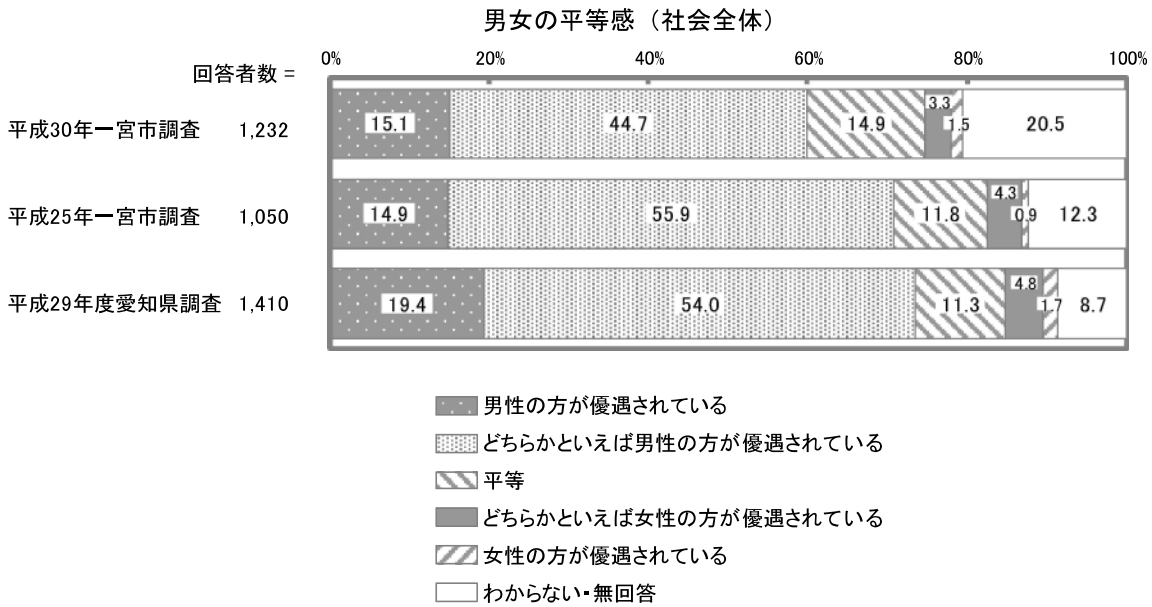
(6) 社会全体

全体では、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）と感じる人が約6割と多くなっています。

性・年代別では、20代から50代の女性で、同年代の男性よりも『男性優遇』と感じる人が多く、特に30代で約20ポイントの差がみられます。また、20代から40代の男性で、同年代の女性より『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）と感じる人が多くなっています。



平成 25 年の一宮市調査と比較すると、『男性優遇』と感じる人が減少しています。
愛知県調査と比較すると、『男性優遇』と感じる人の割合は低くなっています。



ポイント

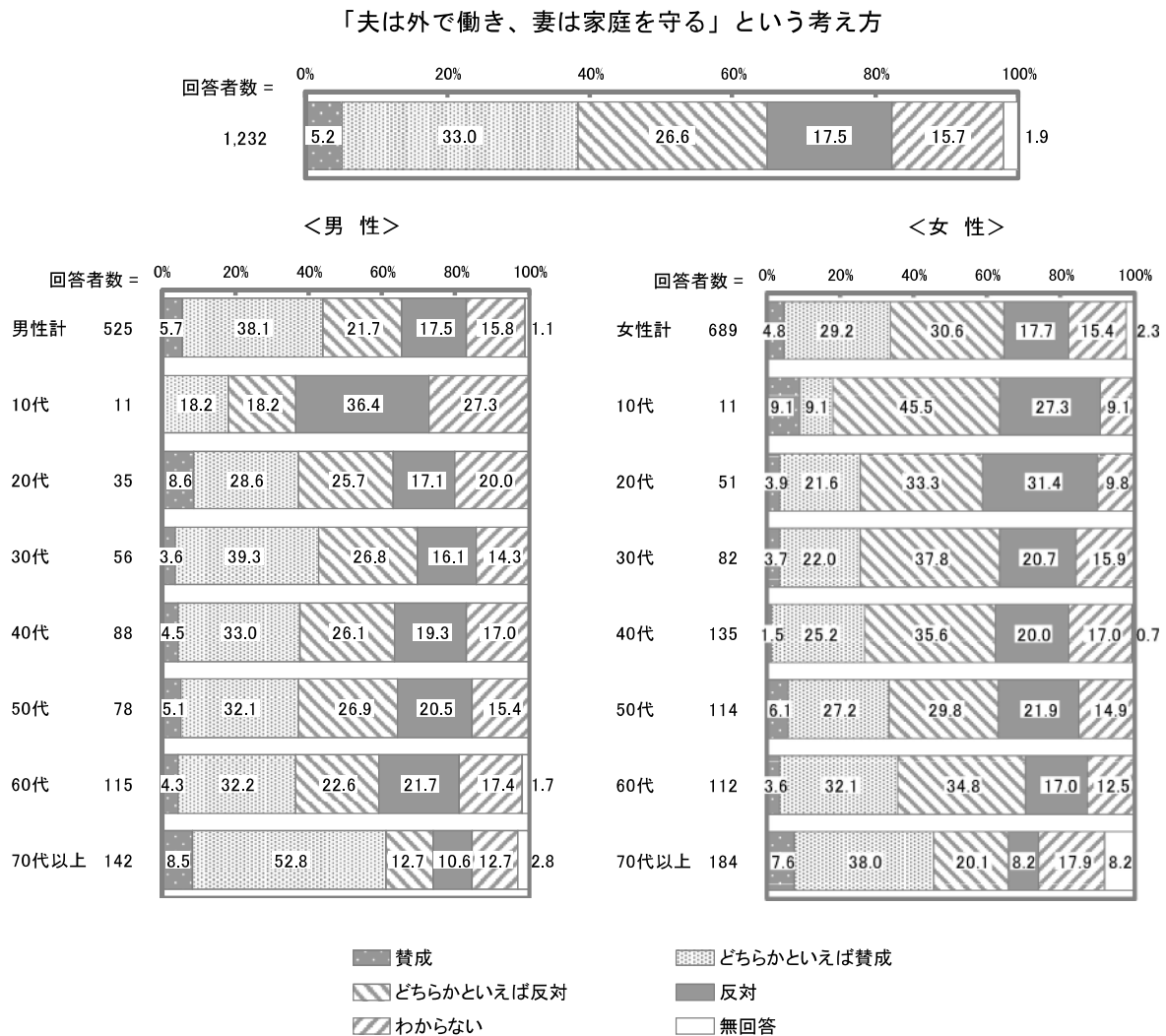
○前回調査と比較すると、社会のさまざまな場面で男性優遇感は低くなってきています。全国、県と比較しても、多くの場面で男性優遇感が低い傾向がみられ、男女共同参画への取組みの一定の成果が見られます。一方、依然として社会通念・慣習・しきたりなど、社会全体としてみた場合など多くの場面で、男女の不平等感が残っている現状もうかがえます。男女共同参画社会を推進していくために、男女共同参画社会の重要性を周知するとともに、なお一層、啓発活動を進めていく必要があります。

3 固定的性別役割分担意識

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方 . . .

全体では、『反対』（「反対」+「どちらかといえば反対」）が4割台半ばと、『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）よりも多くなっています。

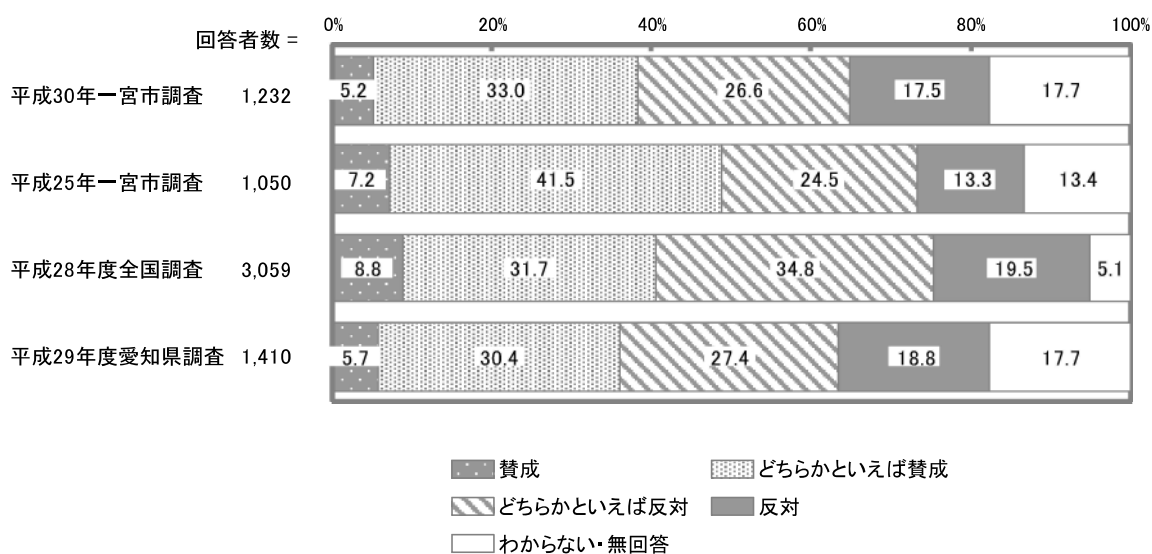
性・年代別では、20代から40代・70代以上の男性で、女性よりも『賛成』が多く、特に70代以上の男性では『賛成』が約6割にのぼっています。一方、すべての年代の女性で、男性より『反対』が多く、また、年代が下がるにつれ『反対』が多くなっています。



平成 25 年の一宮市調査と比較すると、『賛成』の割合は低下し、『反対』の割合は増加しています。

全国、県の調査と比較すると、『賛成』の割合は全国調査より低く、愛知県調査より高くなっています。一方で、『反対』の割合は全国調査、愛知県調査より低くなっています。

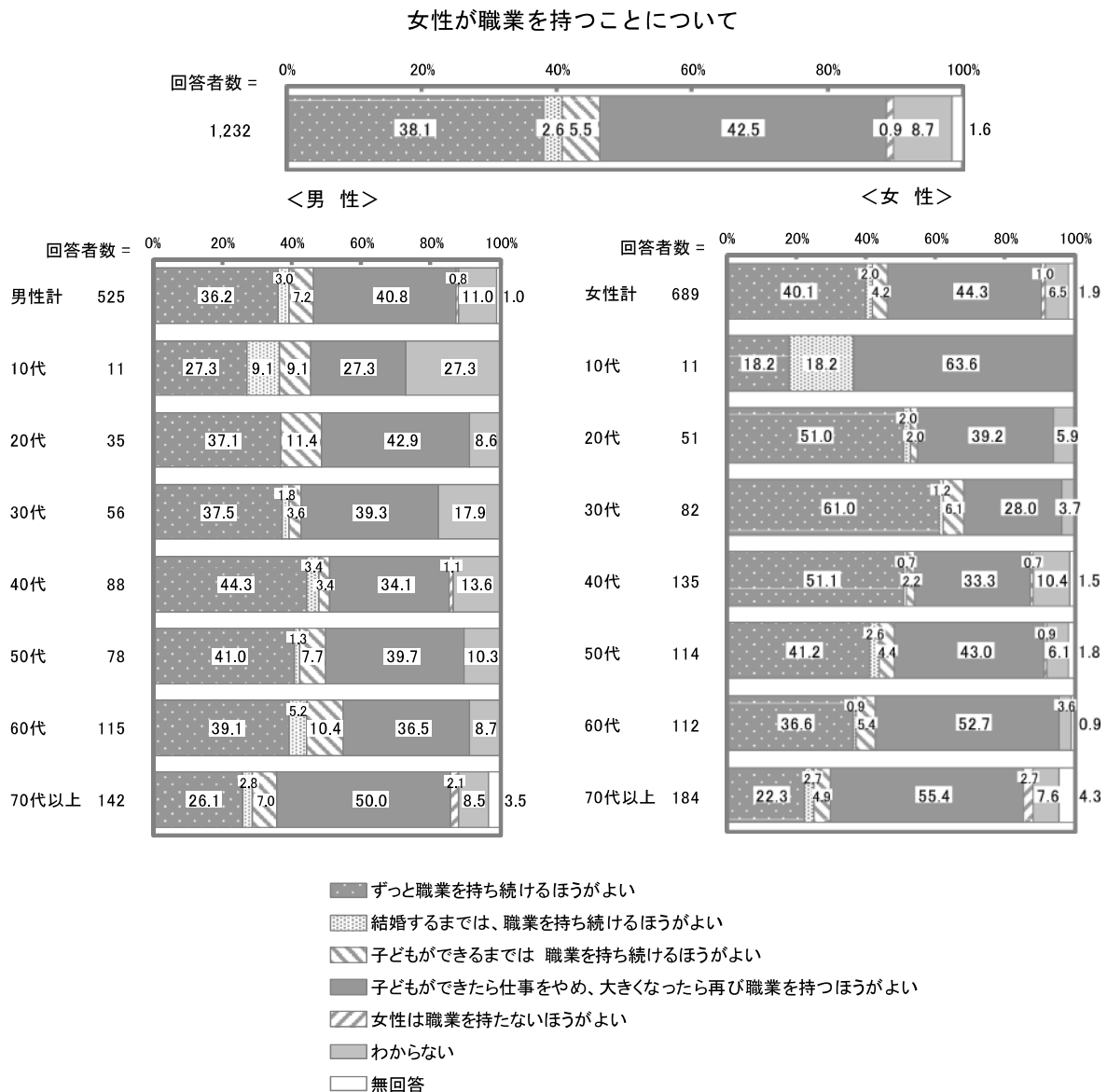
「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方



(2) 女性が職業を持つことについて . . .

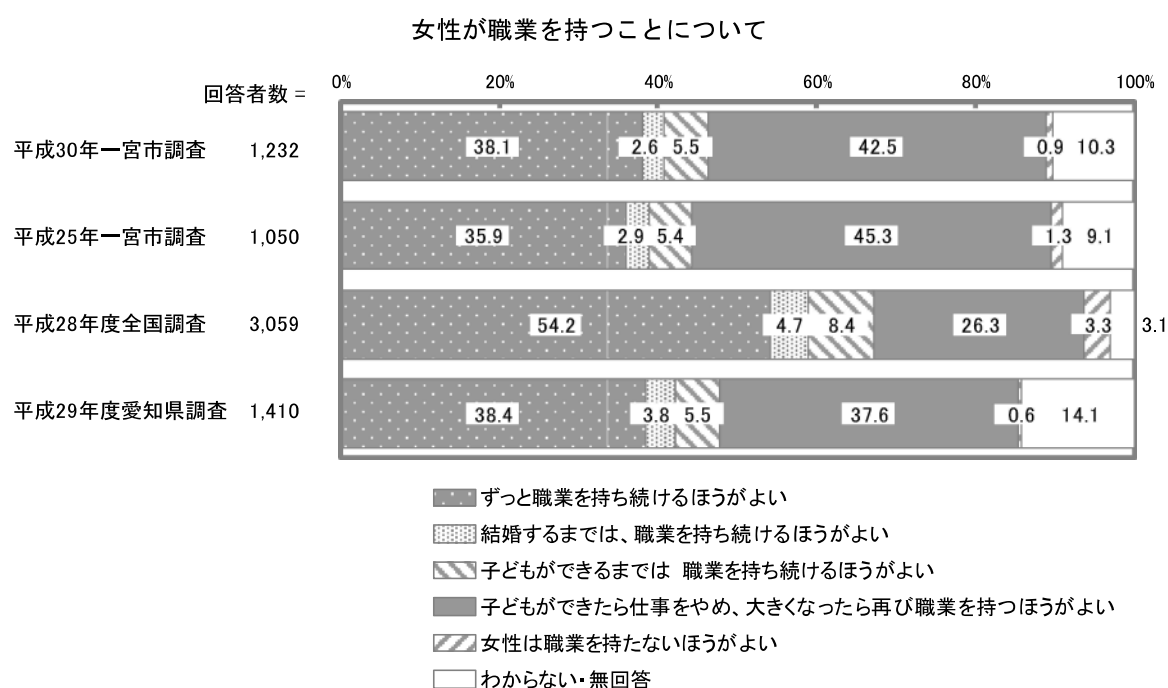
全体では、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が最も多く、次いで「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が多く、ともに約4割となっています。

性・年代別では、他に比べ、20代から40代の女性で「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が、60代以上の女性で「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が多く、それぞれ過半数となっています。



平成 25 年の一宮市調査と比較すると、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が増加し、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が減少しています。

全国、県の調査と比較すると、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が全国調査よりも低くなっています。一方で「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は全国調査、愛知県調査よりも高くなっています。



ポイント

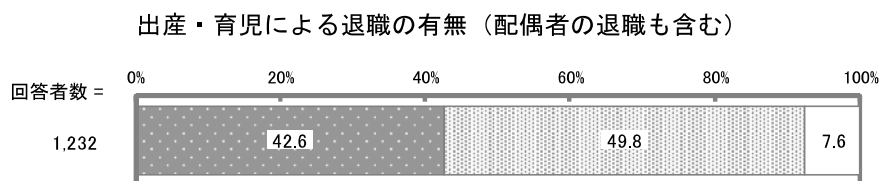
○「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方は前回調査に比べ改善されています。しかし、全国と比較すると、「反対」の割合が低い状況となっています。今後も固定的な性別役割分担意識は、一人ひとりの個性や能力に関係なく影響を与え、個人の職業選択等の可能性を狭めてしまうものであるということを、より一層周知していく必要があります。

○女性が職業を持つことについて、前回調査と比べて「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が増加していますが、全国と比較すると割合が低く、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が高くなっています。今後も仕事の継続を望む女性が結婚、出産などにおいても働き続けられるための支援が必要です。

4 出産・育児による仕事への影響

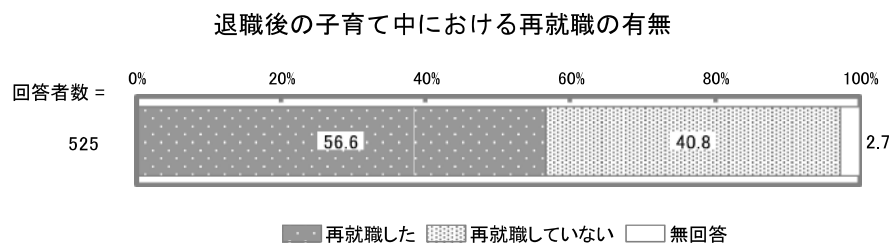
(1) 出産・育児による退職 . . .

全体では、出産・育児により退職したことがある人は約4割となっています。



(2) 退職後の子育て中における再就職 . . .

退職後、子育て中に希望する職場・職業に再就職（パート・アルバイト等を含む）した人は、5割台半ばとなっています。



ポイント

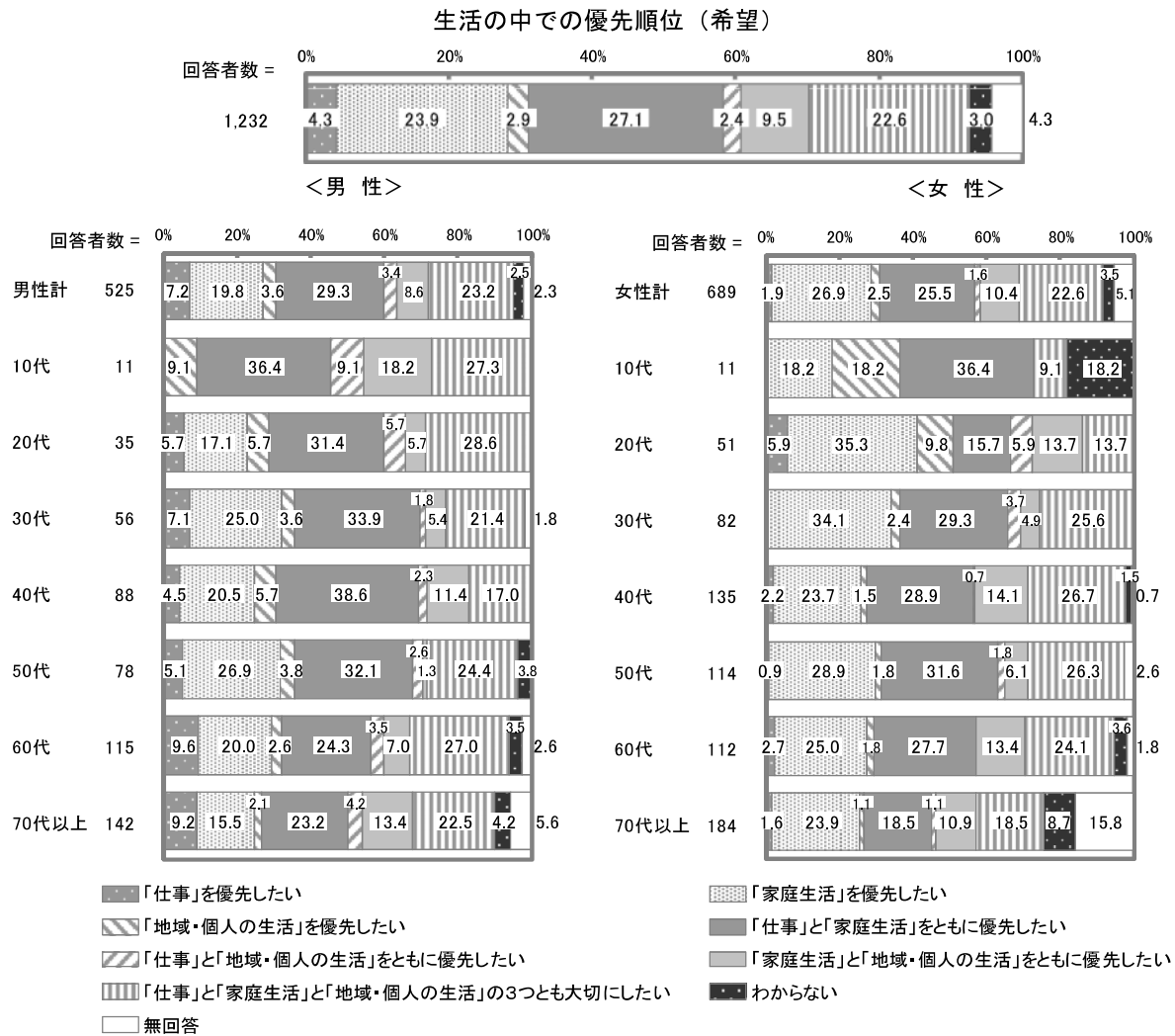
○出産・育児による退職が多いことから、企業とも連携しながら、仕事と子育て等が両立できる環境づくりを進めていく必要があります。

5 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 生活の中での優先順位（希望） ●●●

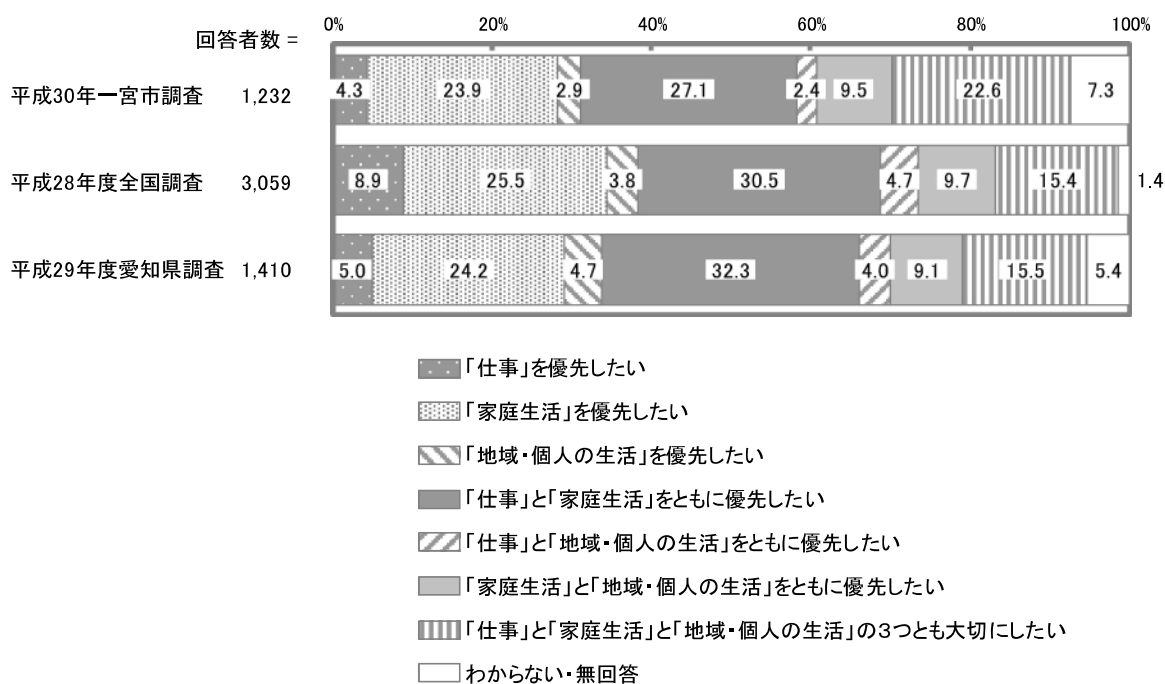
全体では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も多く、約3割となっています。

性・年代別では、20代・30代の女性で、同年代の男性より「『家庭生活』を優先したい」人が多く、3割台半ばとなっています。また、20代女性では、同年代の男性より「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」人が少なく、1割台半ばとなっています。



全国、愛知県の調査と比較すると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい』が高く、『地域・個人の生活』を優先したい』、『家庭生活』を優先したい』が低くなっています。

生活の中での優先順位（希望）

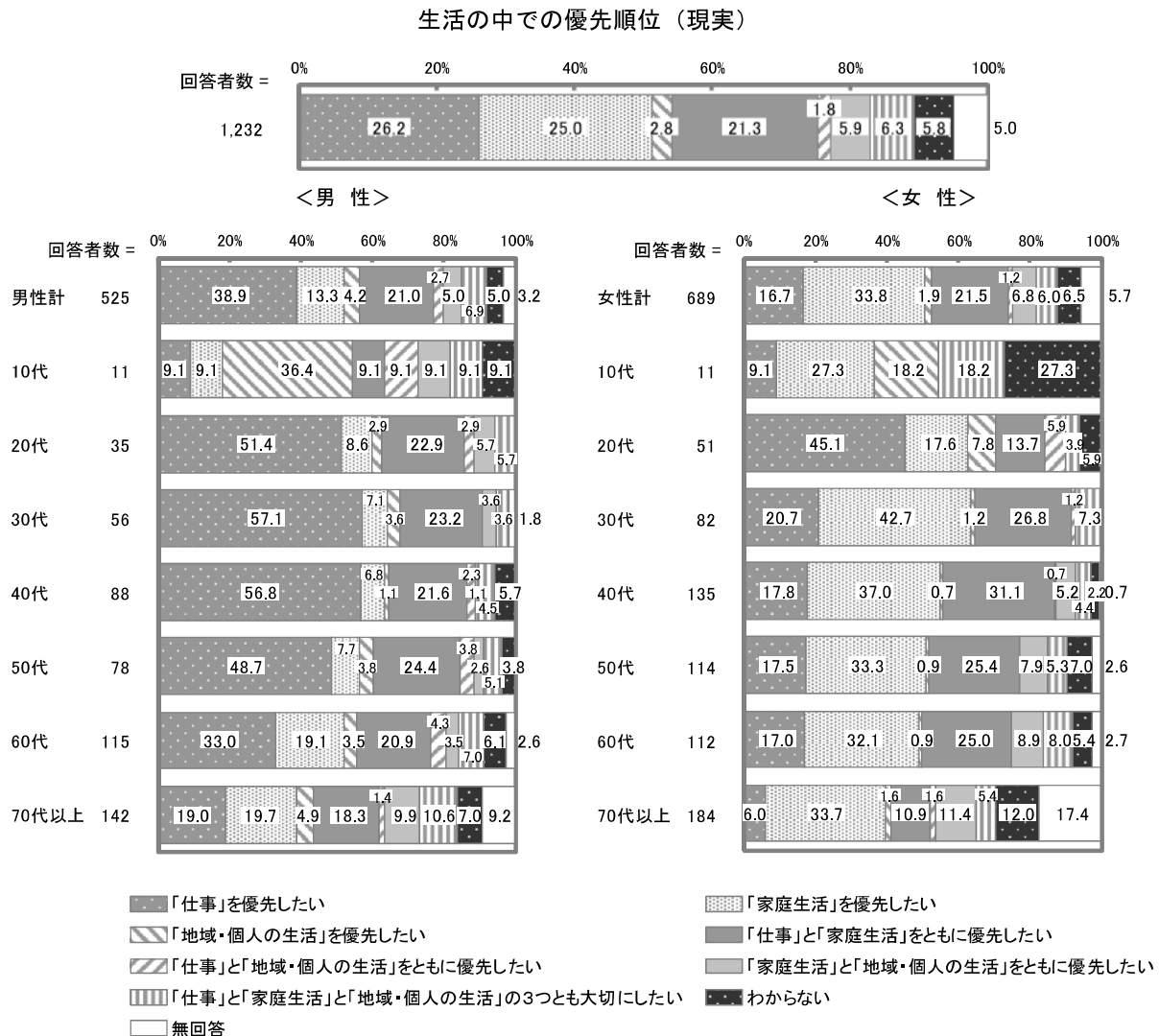


※愛知県調査の「わからない・無回答」には「その他」を含む。

(2) 生活の中での優先順位（現実） . . .

全体では、「『仕事』を優先している」が最も多く、次いで「『家庭生活』を優先している」が多く、ともに2割台半ばとなっています。

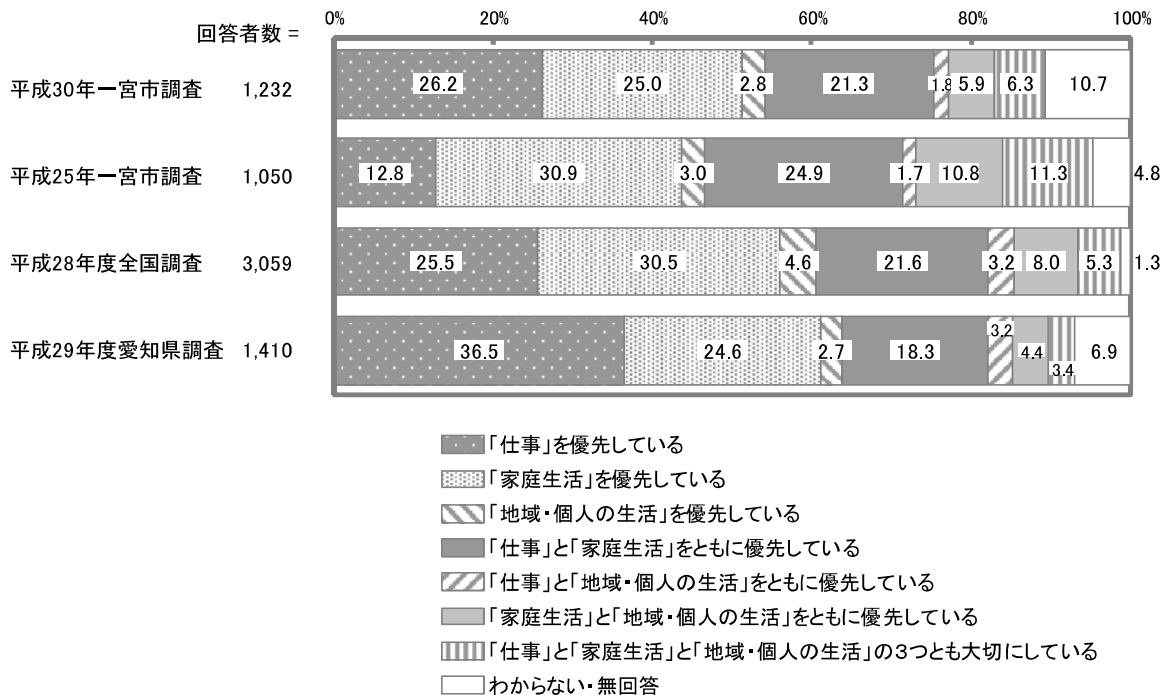
性・年代別では、20代以上の男性で、同年代の女性より「『仕事』を優先している」が多く、一方、すべての年代の女性で、男性より「『家庭生活』を優先している」が多く、性別で差がみられます。



平成25年の一宮市調査と比較すると、「『仕事』を優先している」が増加し、「『家庭生活』を優先している」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしている」が減少しています。

全国、愛知県調査と比較すると、「『仕事』を優先している」が愛知県調査よりも低くなっています。

生活の中での優先順位（現実）



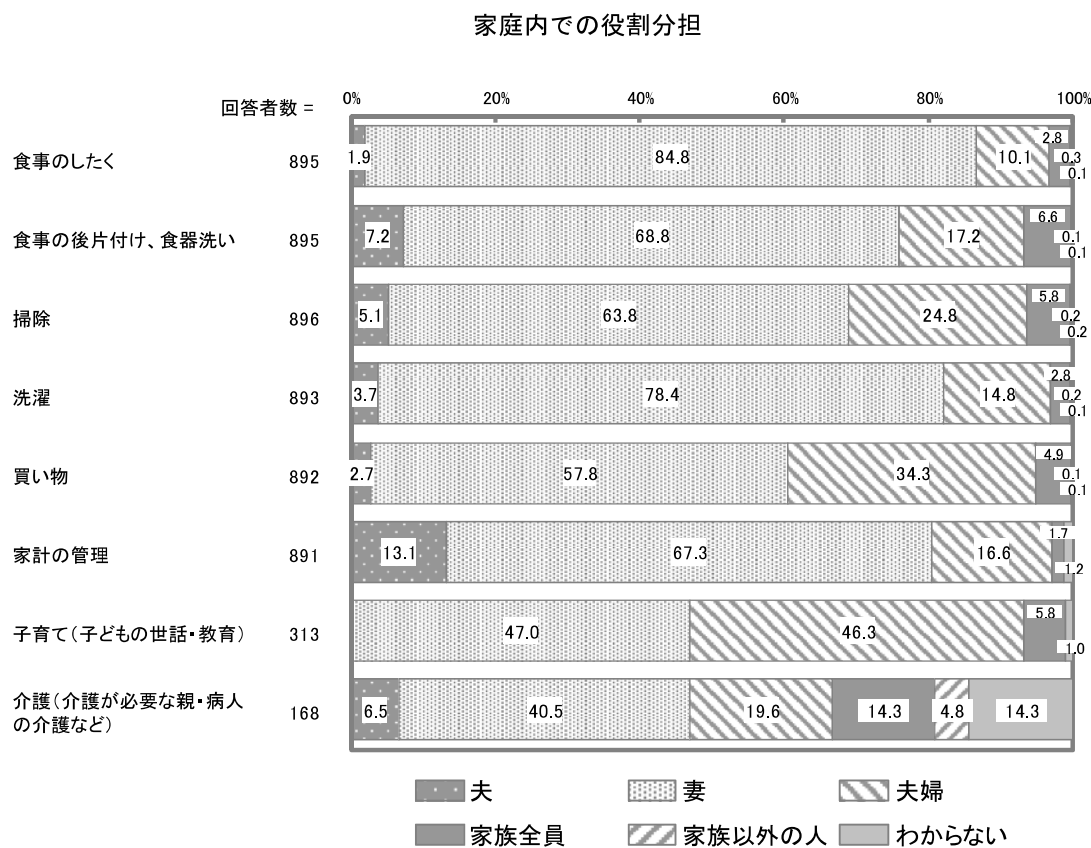
ポイント

○仕事・家庭・地域生活などにおいて、前回調査に比べ『仕事』を優先している人が増加しています。希望では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も多く全国、県と比較すると、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の3つとも大切にしたい」が高くなっており、理想と現実の差が大きい状況です。理想と現実のギャップが小さくなるよう、ワーク・ライフ・バランスの意識の高揚を図り、多様な生き方が選択・実現できる社会をつくる必要があります。

6 家庭内での役割分担

(1) 家庭内での役割分担 . . .

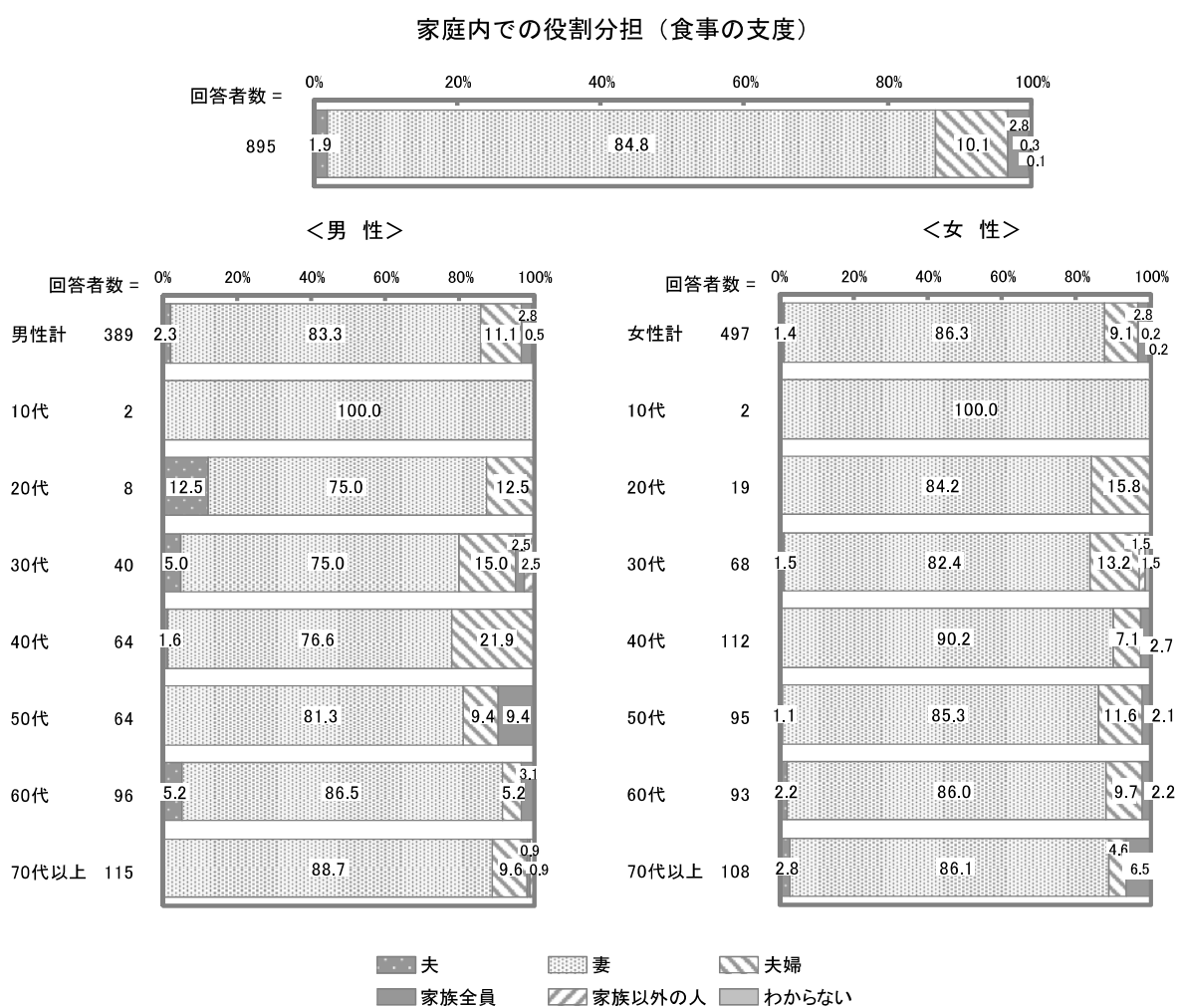
すべての項目で「妻」が最も多くなっており、特に食事のしたくでは8割台半ばとなっています。また、他の項目に比べ、子育て（子どもの世話・教育）で「夫婦」が多くなっています。



(2) 食事のしたく . . .

全体では、「妻」が最も多く、8割台半ばとなっています。

性・年代別では、男女ともすべての年代で「妻」が最も多くなっており、特に40代女性で9割となっています。

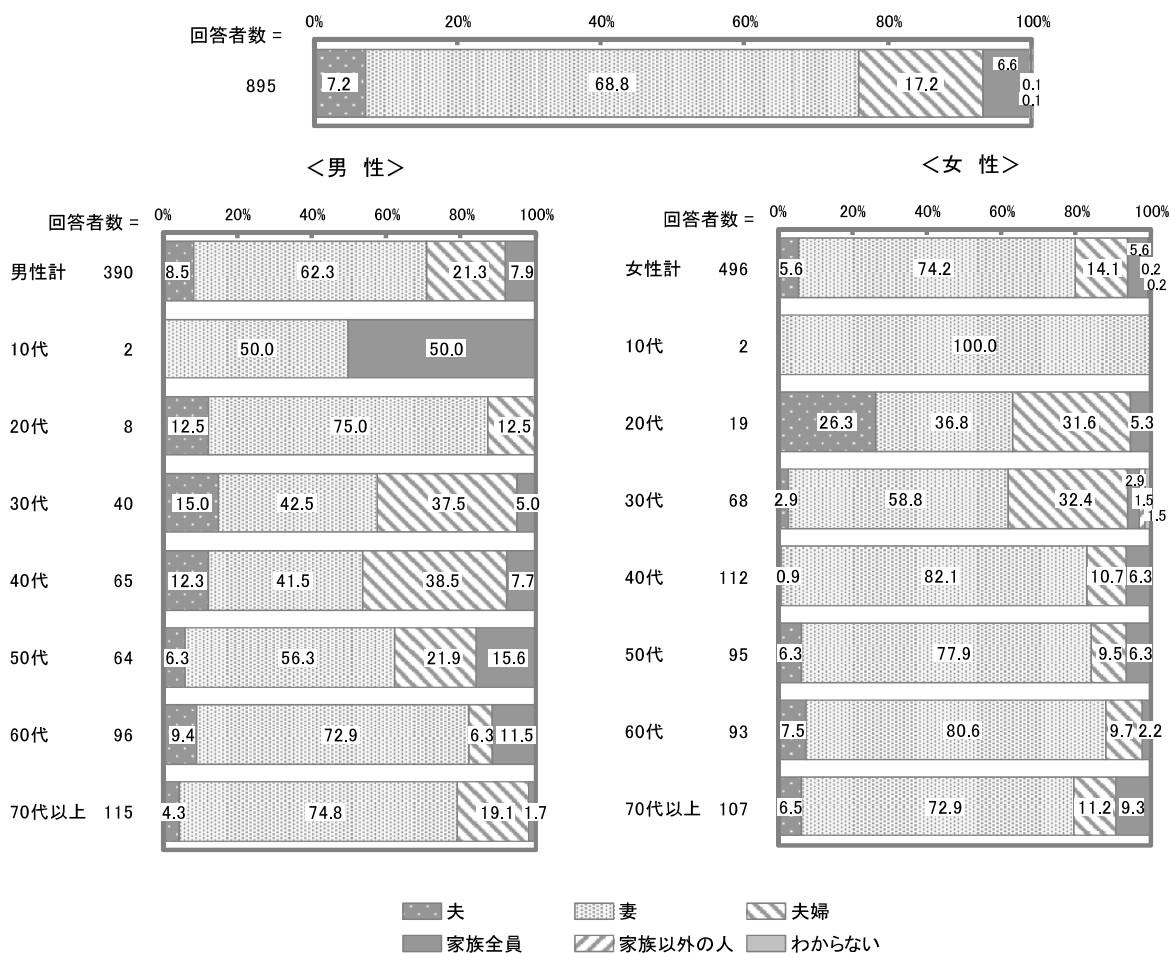


(3) 食事の後片付け、食器洗い

全体では、「妻」が最も多く、7割となっています。

性・年代別では、40代・50代の女性で「妻」が多く、特に40代の女性では、同年代の男性より約41ポイント多くなっています。また、30代・40代の男性、30代の女性で「夫婦」が多くなっています。

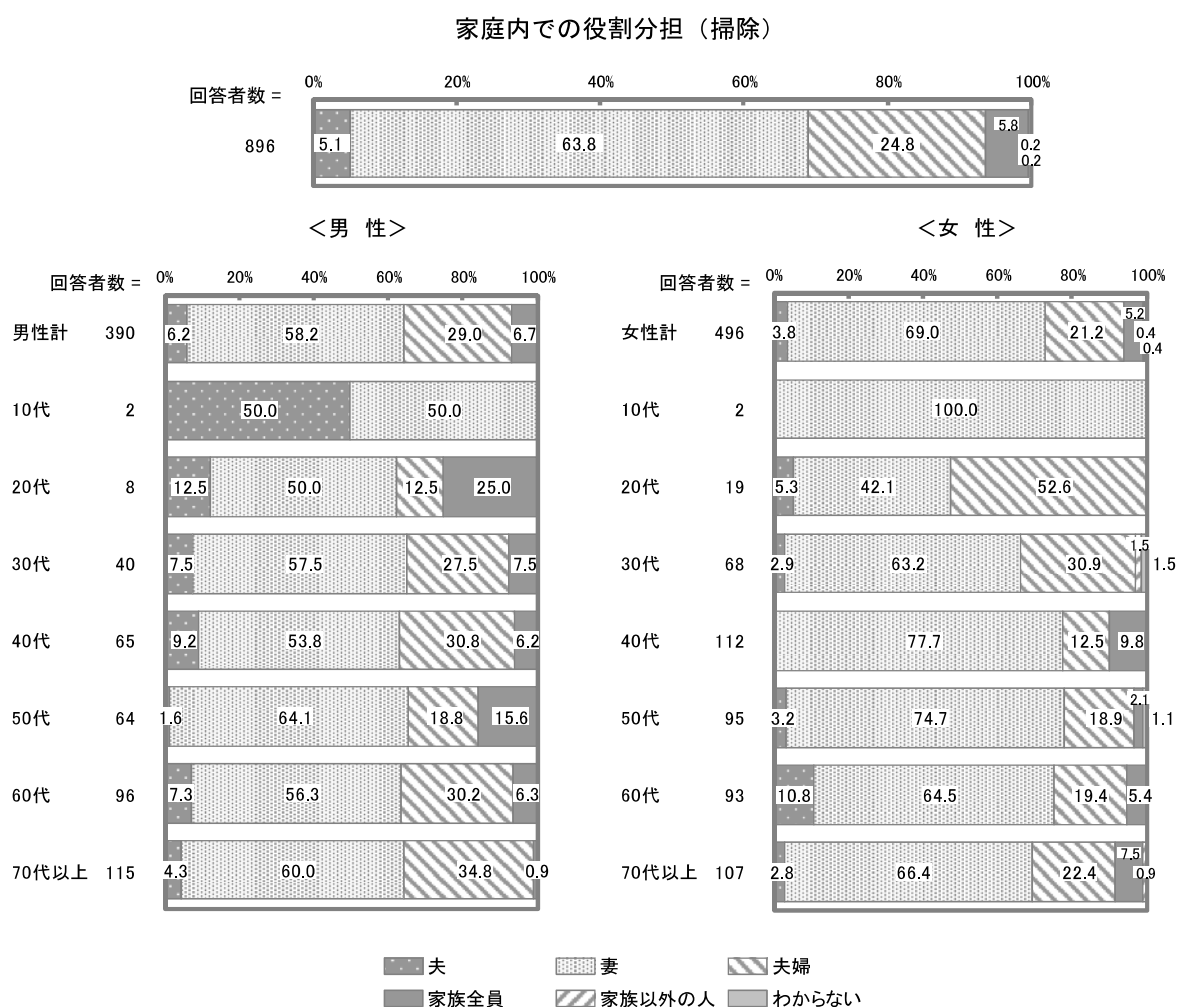
家庭内での役割分担（食事の後片付け、食器洗い）



(4) 掃除 . . .

全体では、「妻」が最も多く、6割台半ばとなっています。

性・年代別では、他に比べ、40代・50代の女性で「妻」が多く、特に40代女性では、同年代の男性よりも約24ポイント多くなっています。また、70代以上の男性で「夫婦」が多くなっています。

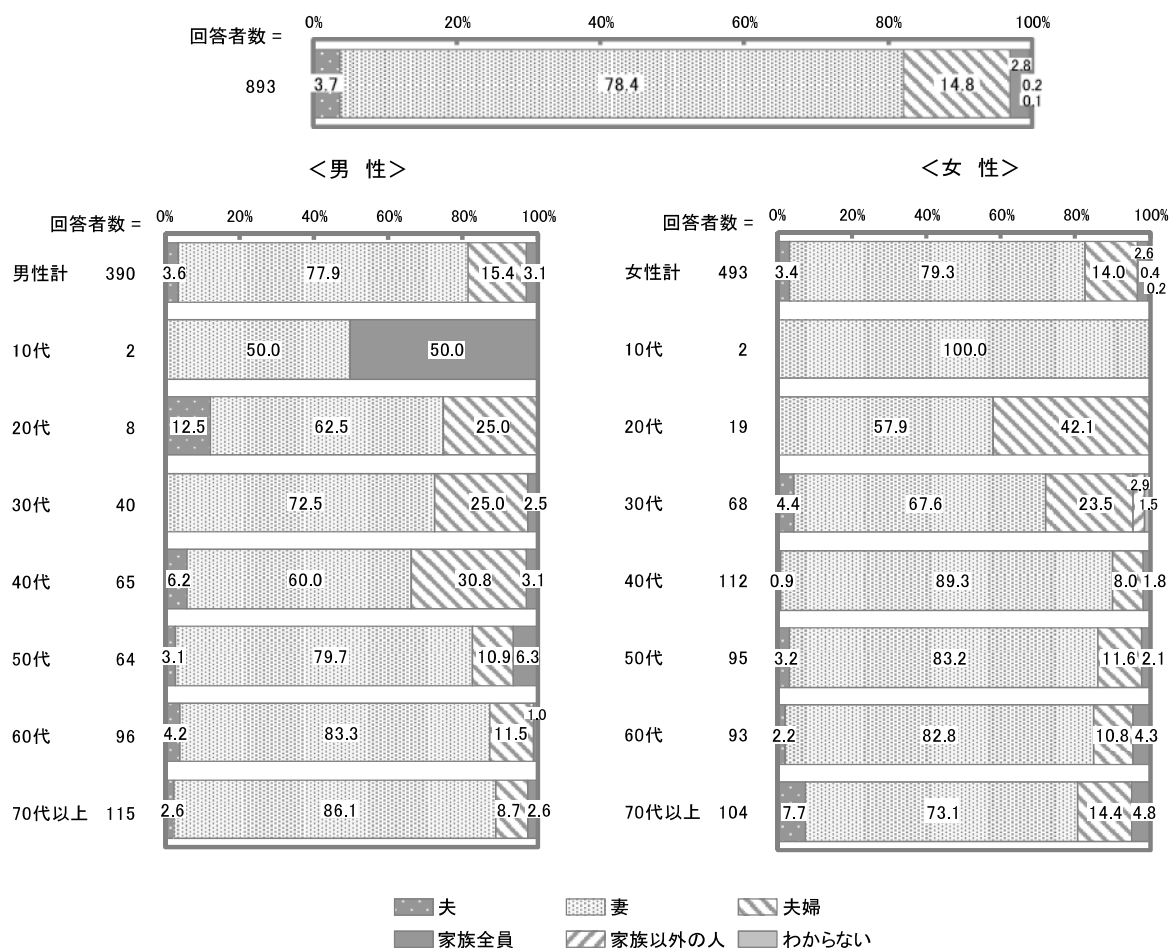


(5) 洗濯 . . .

全体では、「妻」が最も多く、8割となっています。

性・年代別では、他に比べ、40代の女性で「妻」が多く、9割となっており、また、同年代の男性より約30ポイント多くなっています。また、40代の男性で「夫婦」が多くなっています。

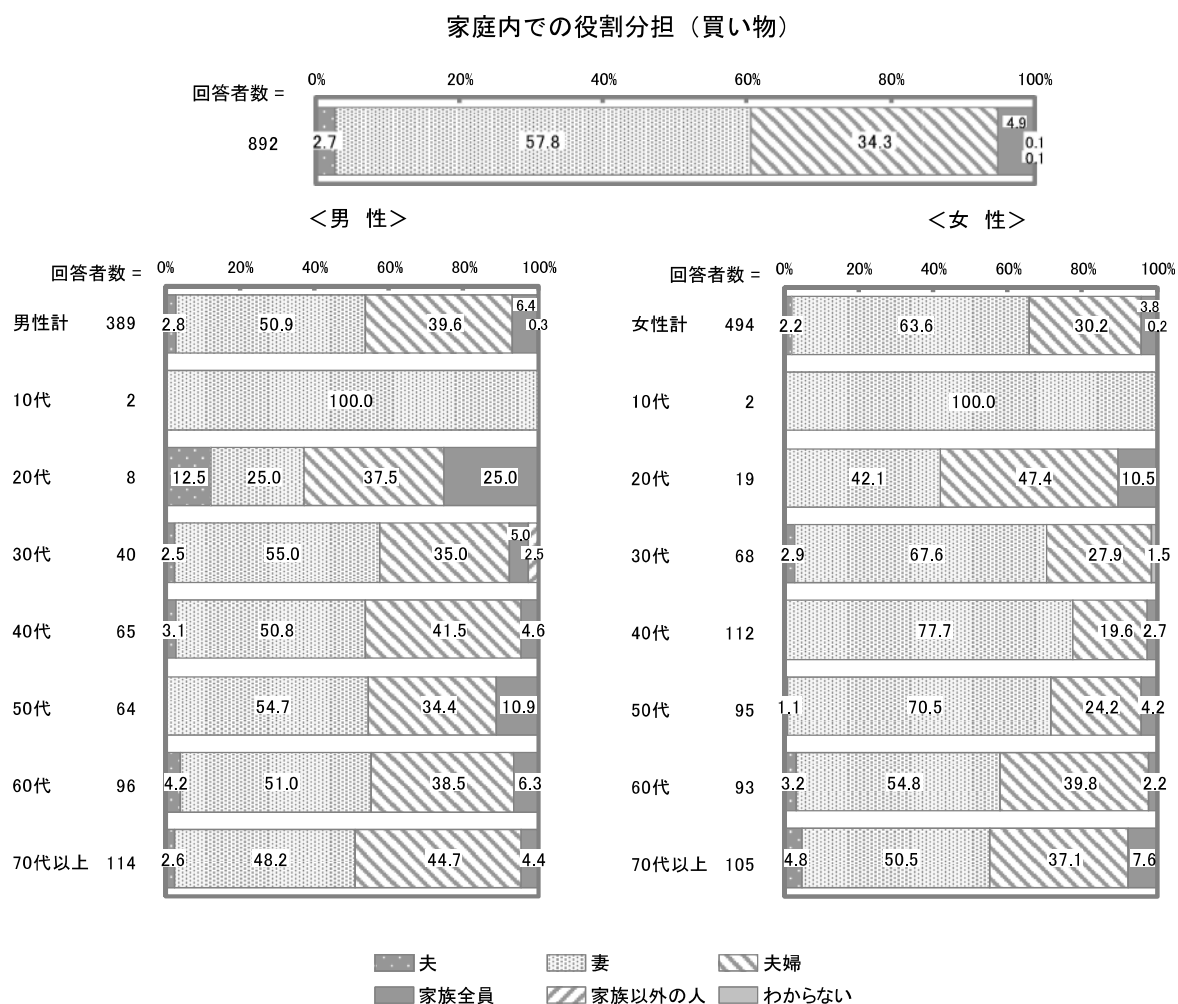
家庭内での役割分担（洗濯）



(6) 買い物 . . .

全体では、「妻」が最も多く、5割台半ばとなっています。

性・年代別では、他に比べ、30代から50代で「妻」が多く、特に40代で7割台半ばとなっており、また同年代の男性よりも約27ポイント多くなっています。また、40代以上の男性で「夫婦」が多くなっています。

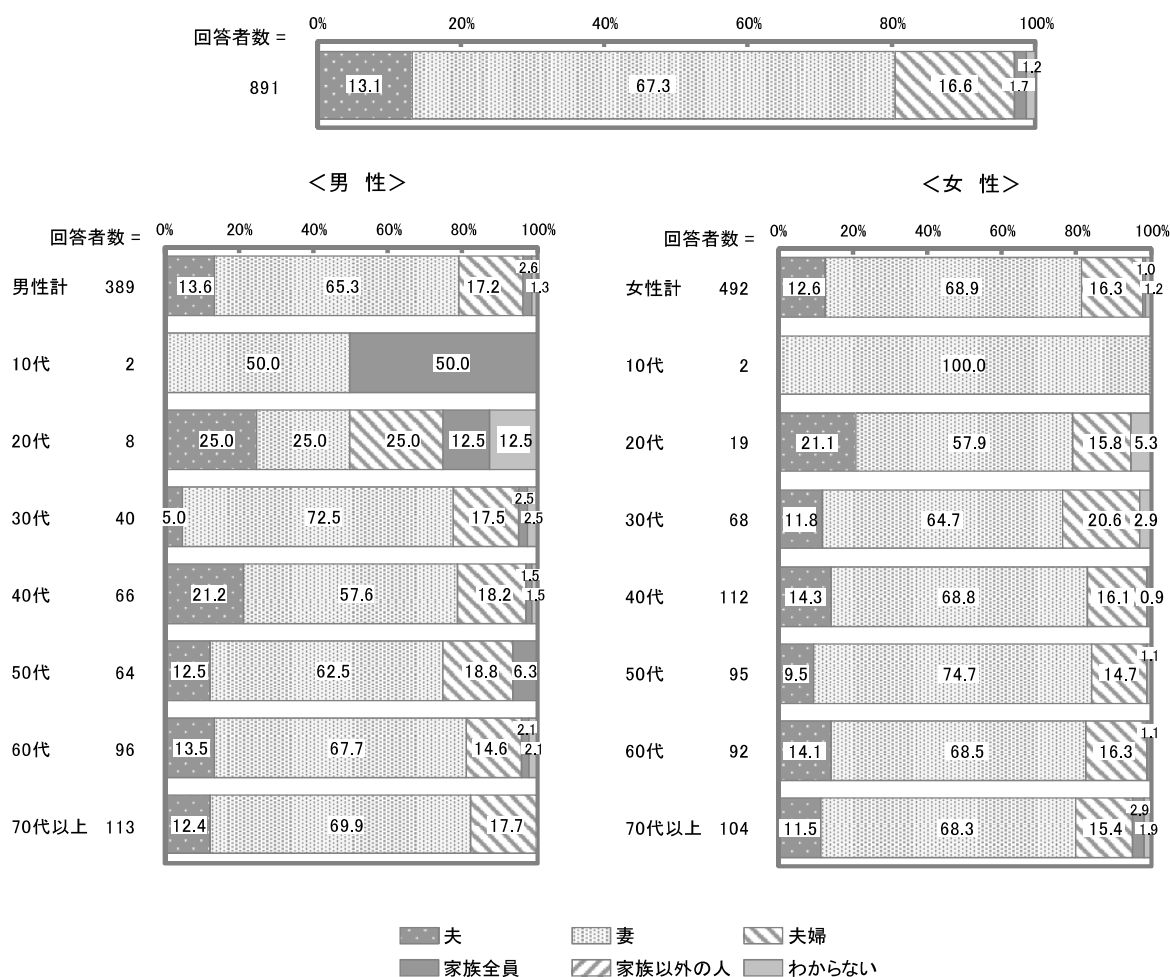


(7) 家計の管理 . . .

全体では、「妻」が最も多く、6割台半ばとなっています。

性・年代別では、他に比べ、30代の男性、50代の女性で「妻」が多く、7割となっています。また、40代・50代の女性で、同年代の男性に比べ、「妻」が10ポイント以上多くなっています。

家庭内での役割分担（家計の管理）

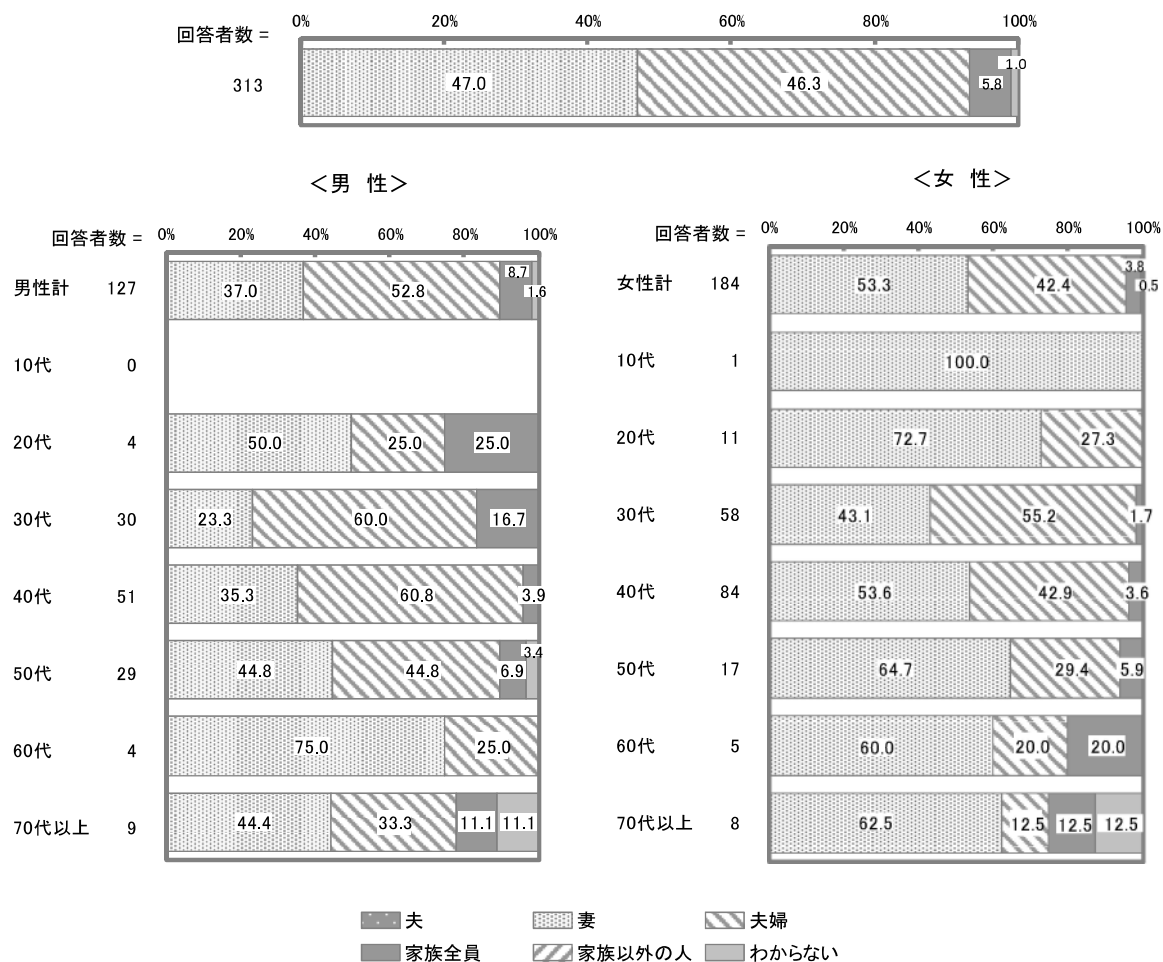


(8) 子どもの世話・教育

全体では、「妻」と「夫婦」が同程度となっています。

性・年代別では、40代以上の女性で「妻」が多く、特に40代の女性で、同年代の男性より約18ポイント多くなっています。また、一方、30代・40代の男性で「夫婦」が多くなっています。

家庭内での役割分担（子どもの世話・教育）

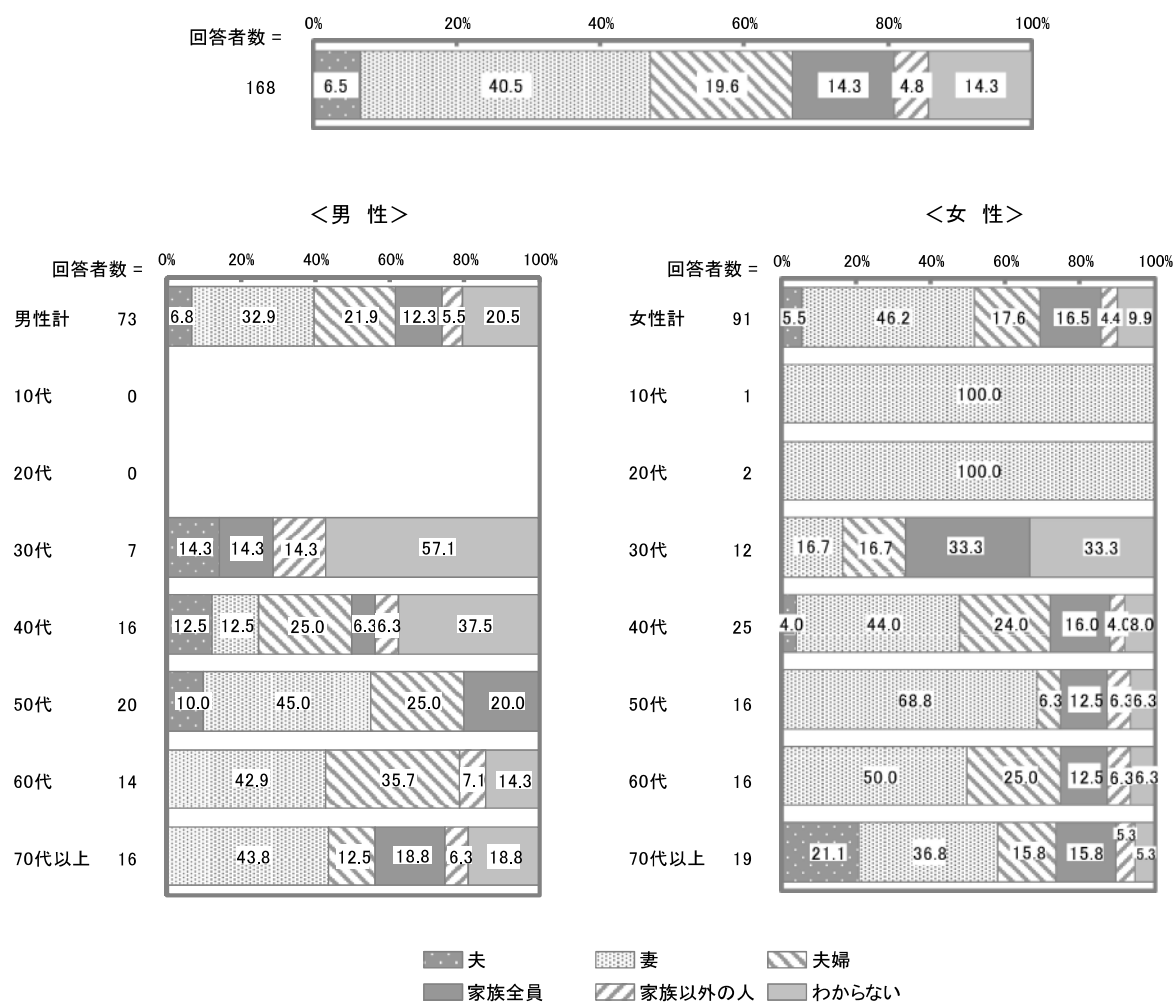


(9) 介護が必要な親・病人の介護など . . .

全体では、「妻」が最も多く、約4割となっています。

性・年代別では、他に比べ、50代の男性で「妻」が多くなっています。

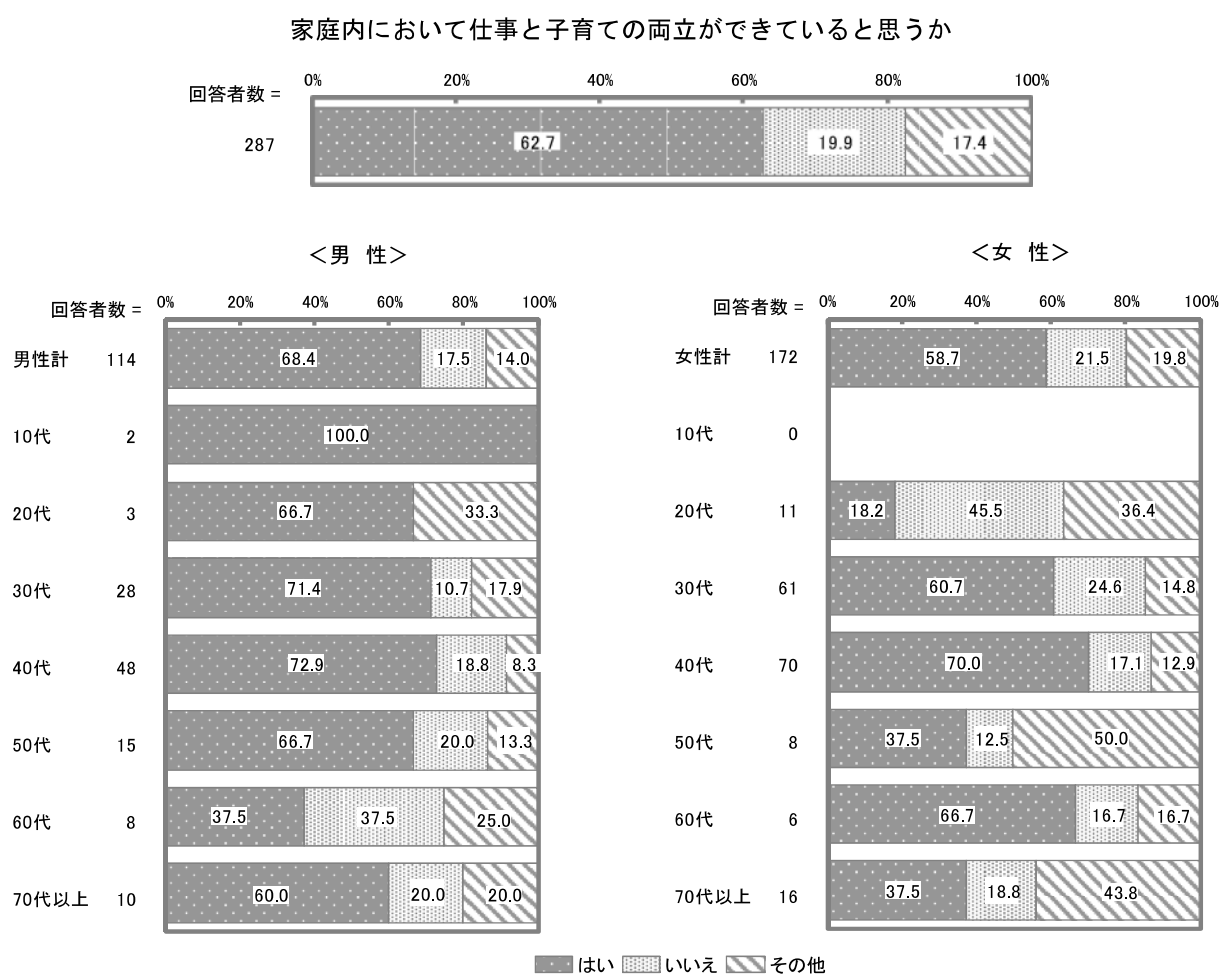
家庭内での役割分担（介護が必要な親・病人の介護など）



(10) 家庭内における仕事と子育ての両立について . . .

家庭内において仕事と子育ての両立ができていると思うかについて、「はい」の割合が最も多く、約6割となっています。

性・年代別では、他に比べ、30代の女性で「いいえ」が多く、2割半ばとなっており、また、同年代の男性より約14ポイント多くなっています。



ポイント

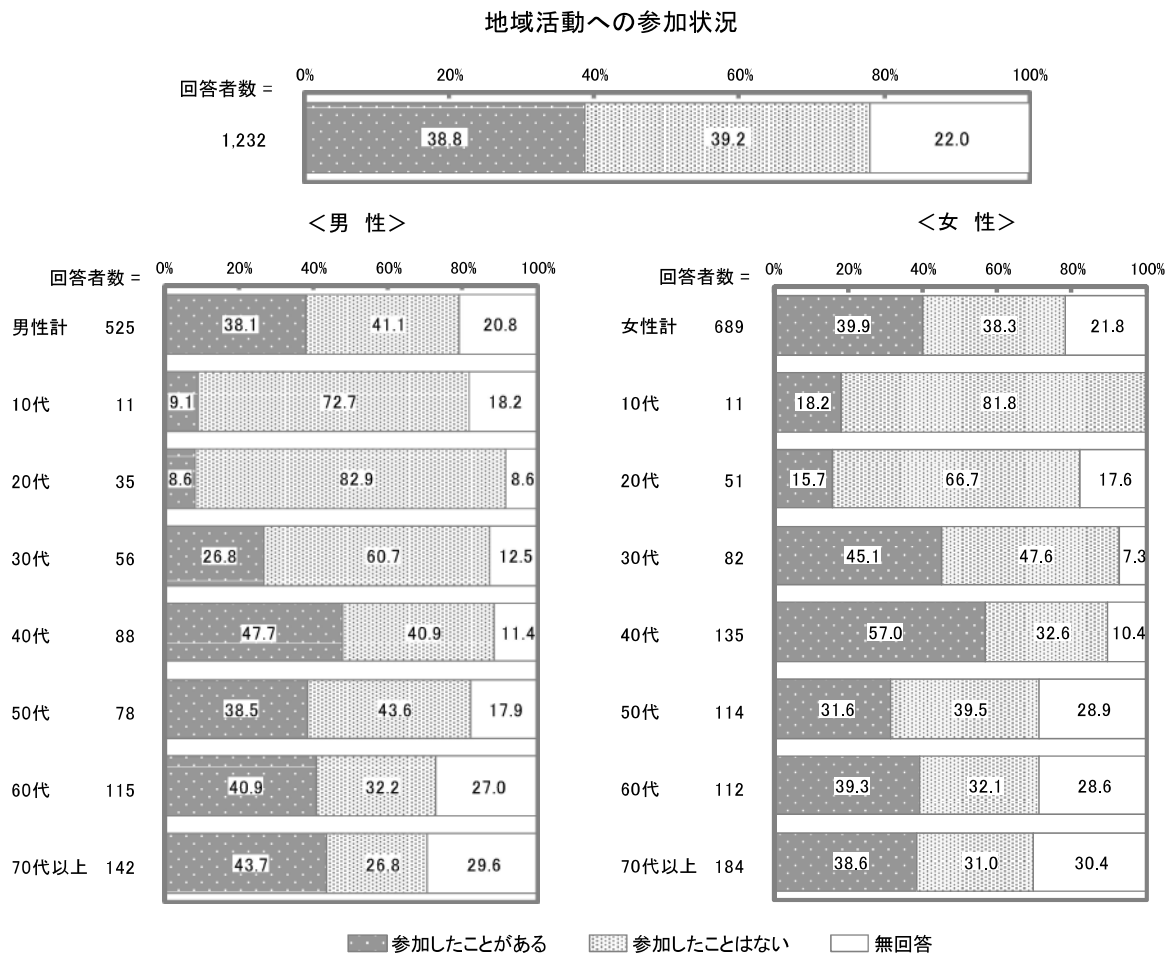
○家庭内での役割分担は、妻が担っている場合が多くなっています。家庭内で男女がともに協力しながら家事や育児を分担することができるよう、男女の意識の向上と男性が意欲的に家事・育児・介護に参加するための取組みが必要です。

7 地域活動

(1) 地域活動への参加状況 ●●●

全体では、「参加したことがある」、「参加したことはない」がどちらも約4割となっています。

性・年代別では、40代以下の女性で、同年代の男性より「参加したことがある」が多く、特に30代の女性で男性より約18ポイント多くなっています。また、50代・70代以上の男性で、同年代の女性より「参加したことがある」が多くなっています。

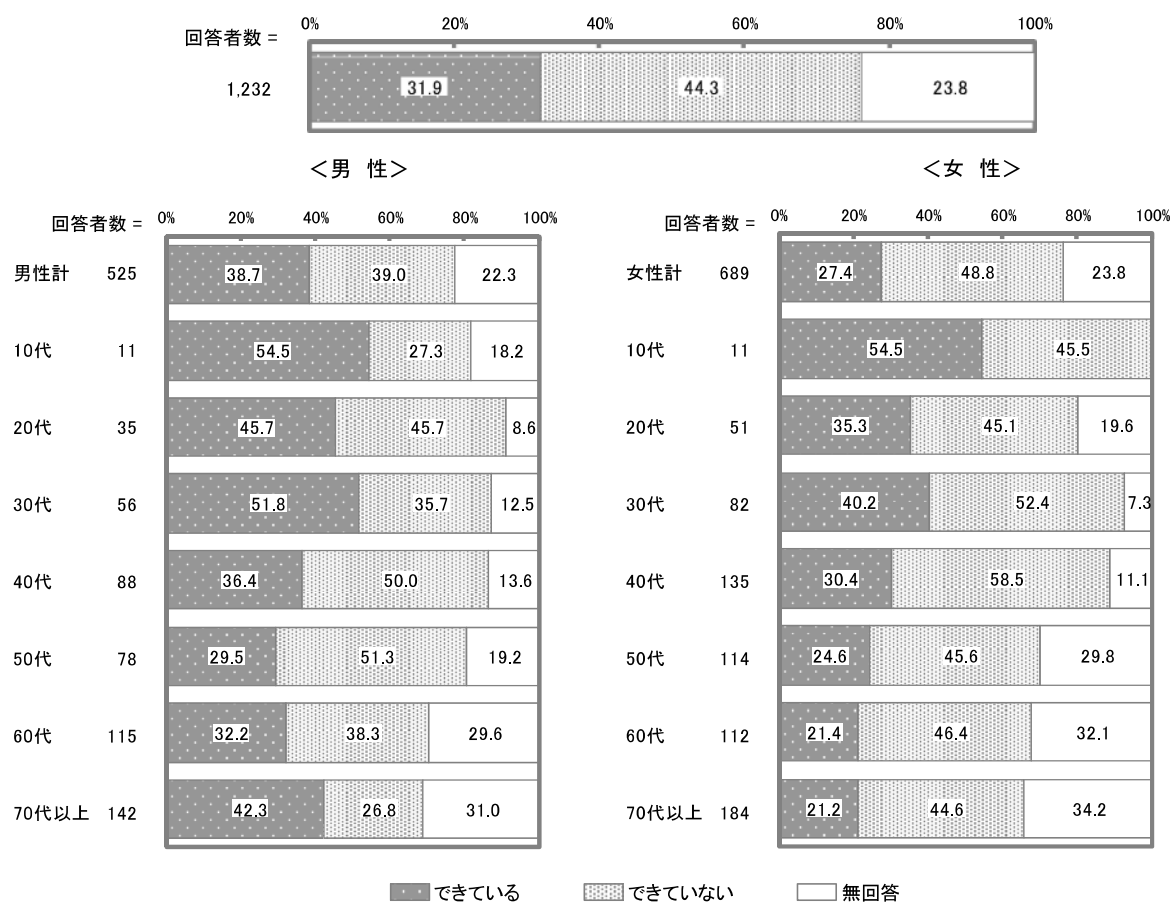


(2) 性別・立場に関係ない自由な意見交換 . . .

全体では、「できている」が約3割であるのに対し、「できていない」が4割台半ばと多くなっています。

性・年代別では、10代・50代を除くすべての年代の男性で、同年代の女性より「できている」が多くなっています。

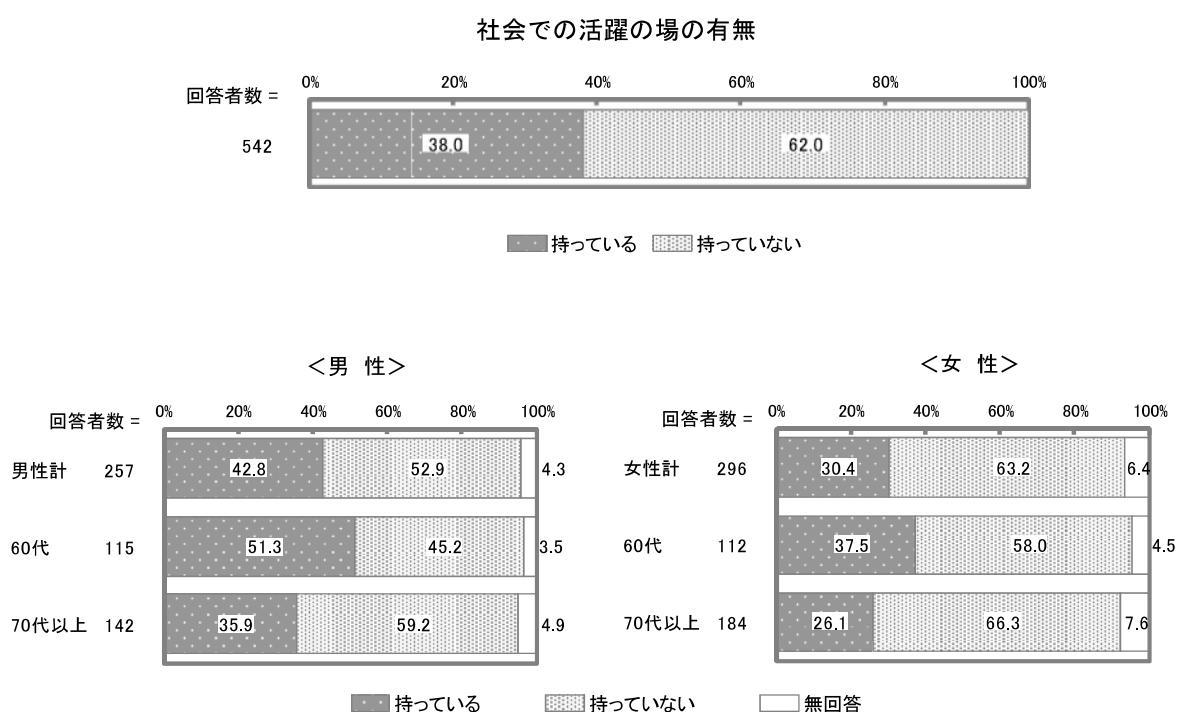
性別・立場に関係なく家庭・地域で自由に意見交換ができているか



(3) 社会での活躍の場

全体では、「持っている」が3割台半ばであるのに対し、「持っていない」が約6割と多くなっています。

性・年代別では、60代・70代以上ともに、女性より男性で「持っている」が多く、特に60代で約14ポイントの差がみられます。



※性別・年代別グラフは、60歳以上の人限定して集計しています。

ポイント

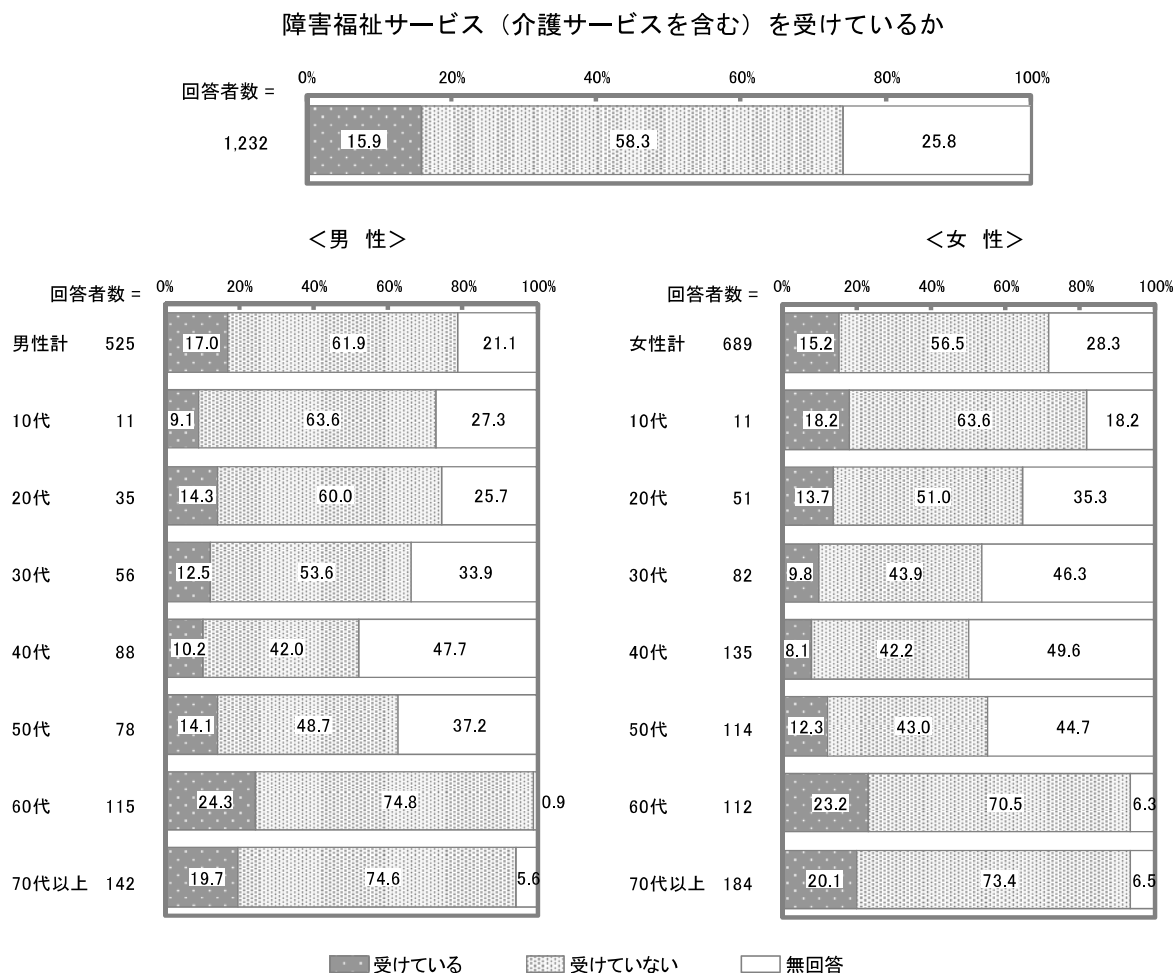
○町内会や女性の会、子ども会、老人会、ボランティア、サークル等の地域活動に、男女ともに参加し、自由に意見交換ができるように男女共同参画を進めることが必要です。

8 福祉サービスの利用

(1) 障害福祉サービス（介護サービスを含む）を受けているか・・・

全体では、障害福祉サービス（介護サービスを含む）を「受けている」人が1割台半ばとなっています。

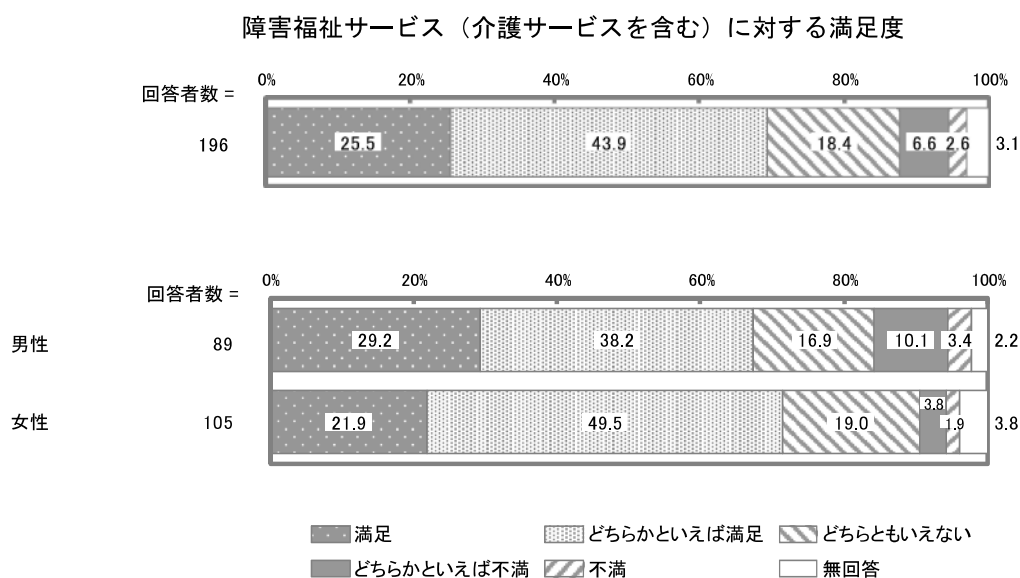
性・年代別では、男女ともに60代以上で「受けている」が多くなっていますが、男女間で大きな差はみられません。



(2) 障害福祉サービス（介護サービスを含む）に対する満足度・・・

障害福祉サービス（介護サービスを含む）を受けている人の中で『満足』（「満足」+「どちらかといえば満足」）の割合は約7割となっています。

性別では、女性に比べ男性で『不満』（「どちらかといえば不満」+「不満」）が多く約8ポイントの差がみられます。



ポイント

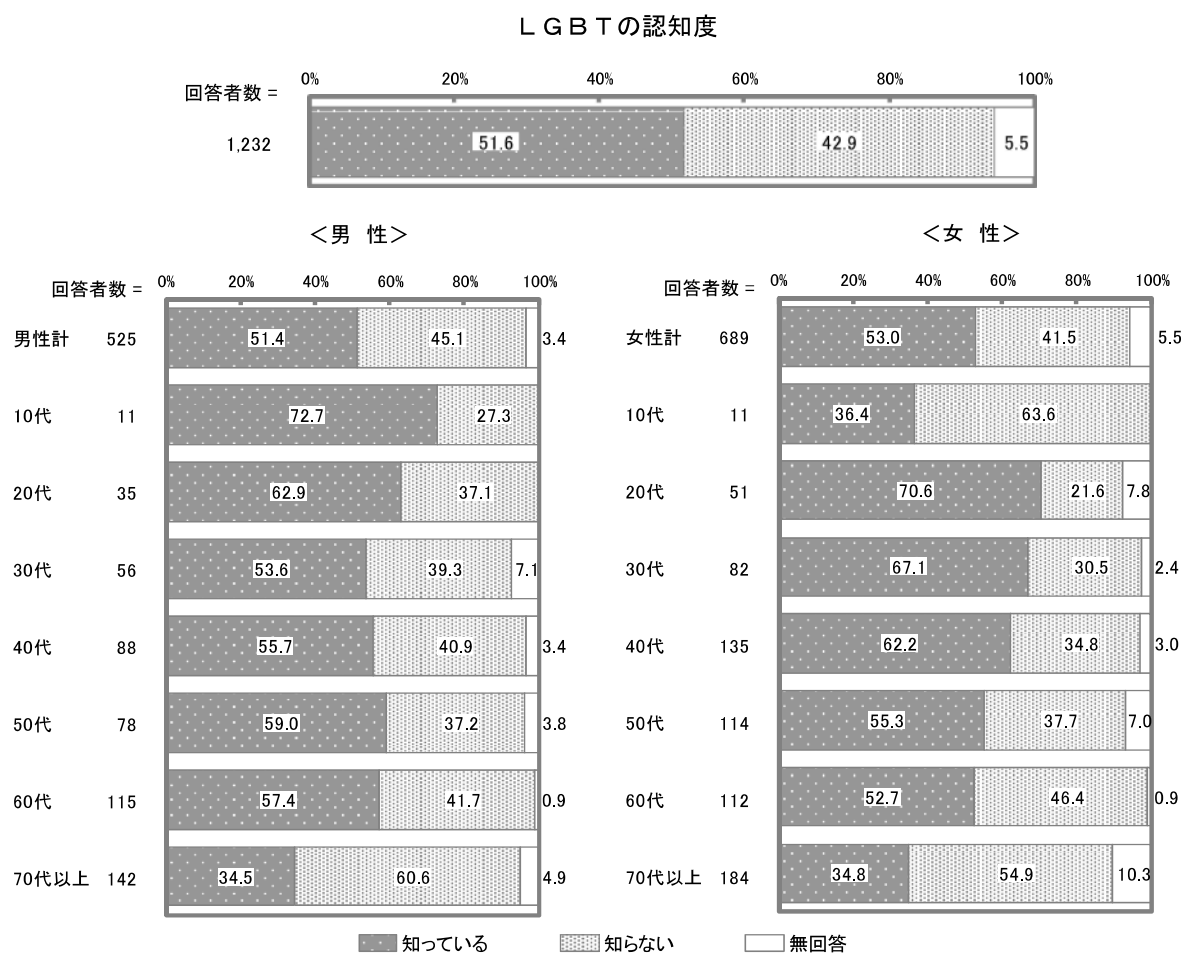
○男女ともに60代以上で福祉サービスを受けている人が多く、また、男性に比べ女性で『満足』（「満足」+「どちらかといえば満足」）している人の割合が高くなっています。高齢化の進展に伴い介護を要する熟年者も増えていくため、より一層の支援の充実が必要です。

9 性的少数者

(1) LGBTの認知度

全体では、「知っている」が約5割、「知らない」が約4割と、「知っている」人が多くなっています。

性・年代別では、10代の男性、20代・30代の女性で「知っている」人が多く、約7割となっています。また、20代から40代の男性で、同年代の女性より「知らない」人が多くなっています。



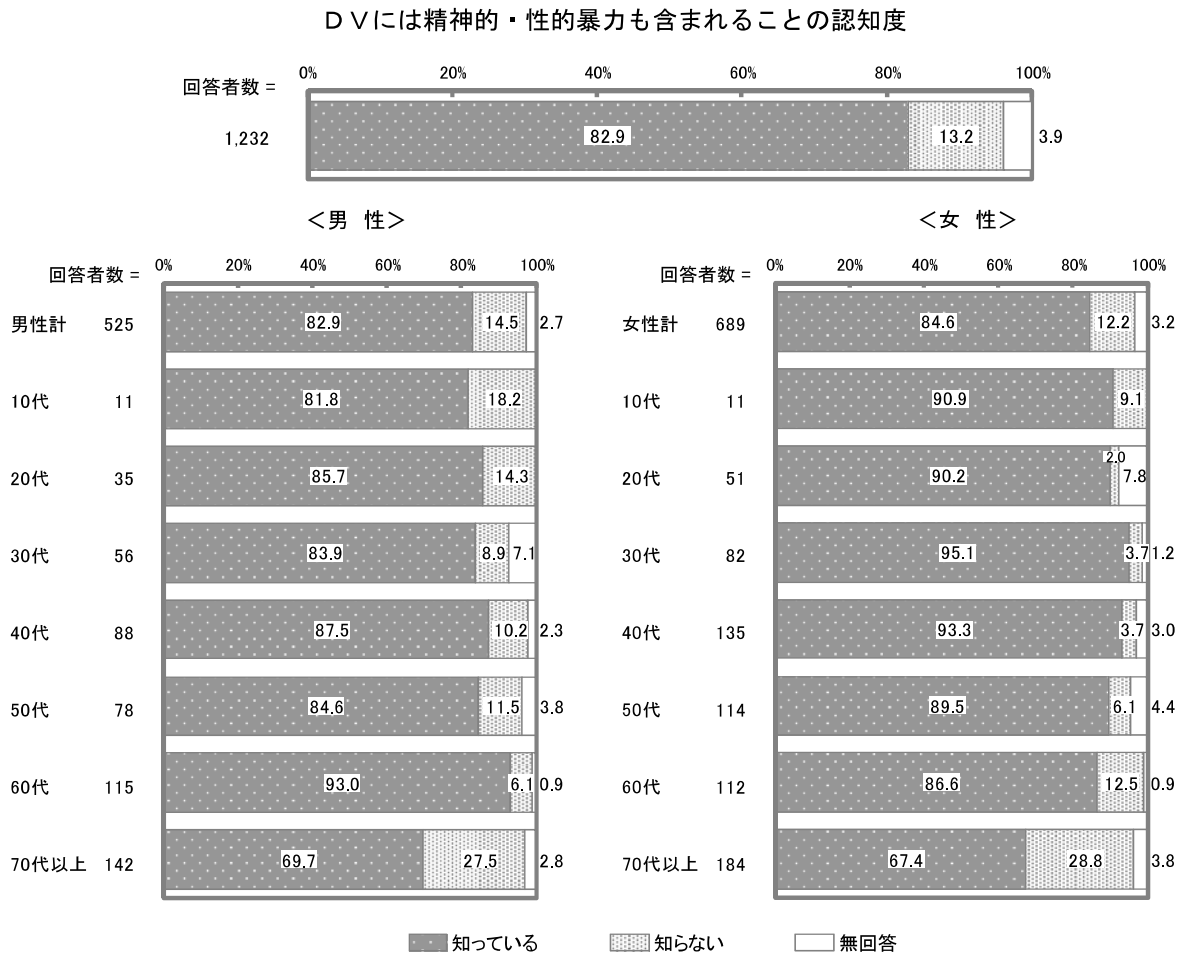
ポイント

○LGBTについては、「知っている」と「知らない」がほぼ二分されており、周知が必要となっています。

10 DV（ドメスティック・バイオレンス）

（1）暴力の概念について・・・

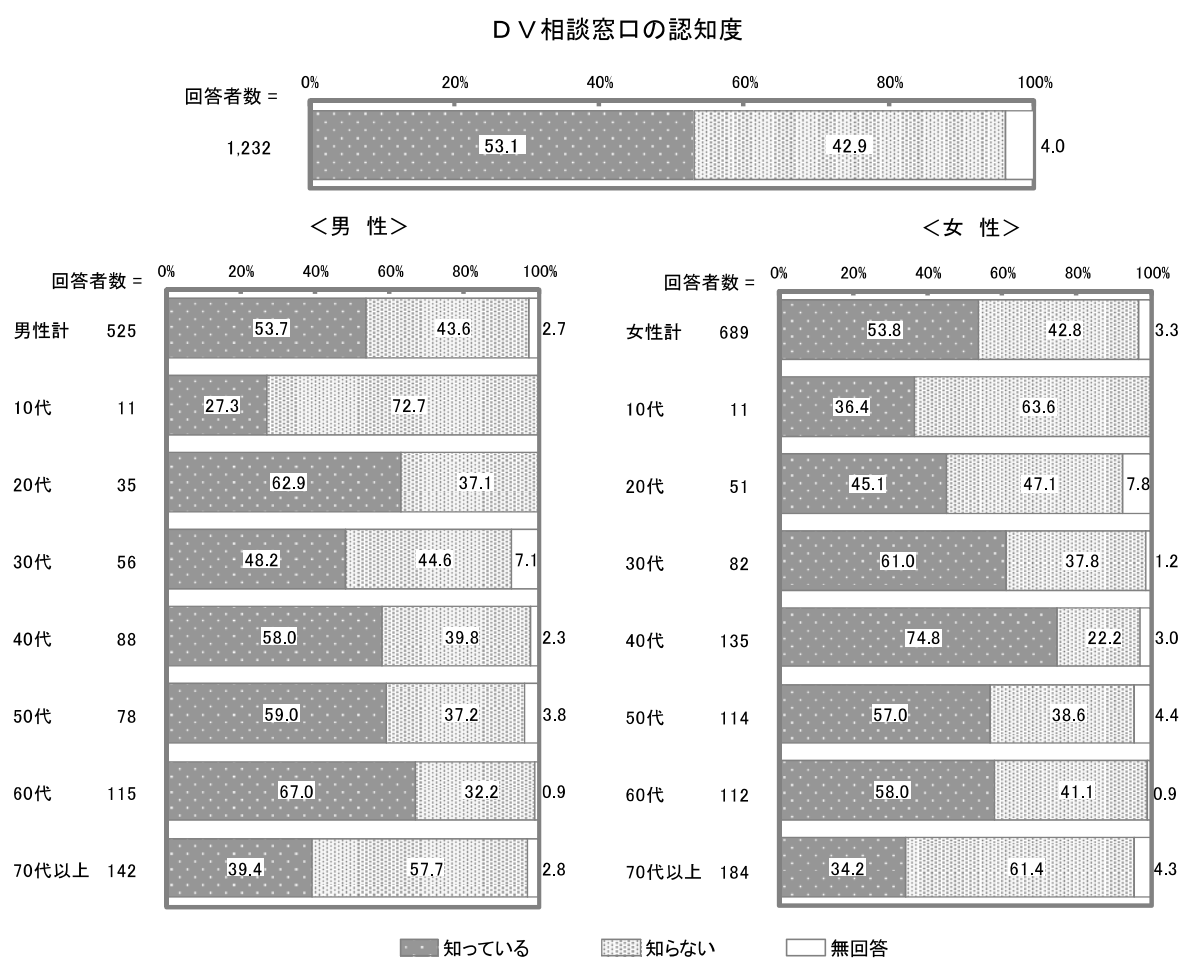
全体では、「知っている」人が約8割と、「知らない」人に比べ、多くなっています。
 性・年代別では、10代から50代の男性で、同年代の女性に比べ、「知らない」人が多くなっています。



(2) DV相談窓口の認知度 . . .

全体では、「知っている」人が約5割、「知らない」人が約4割となっています。

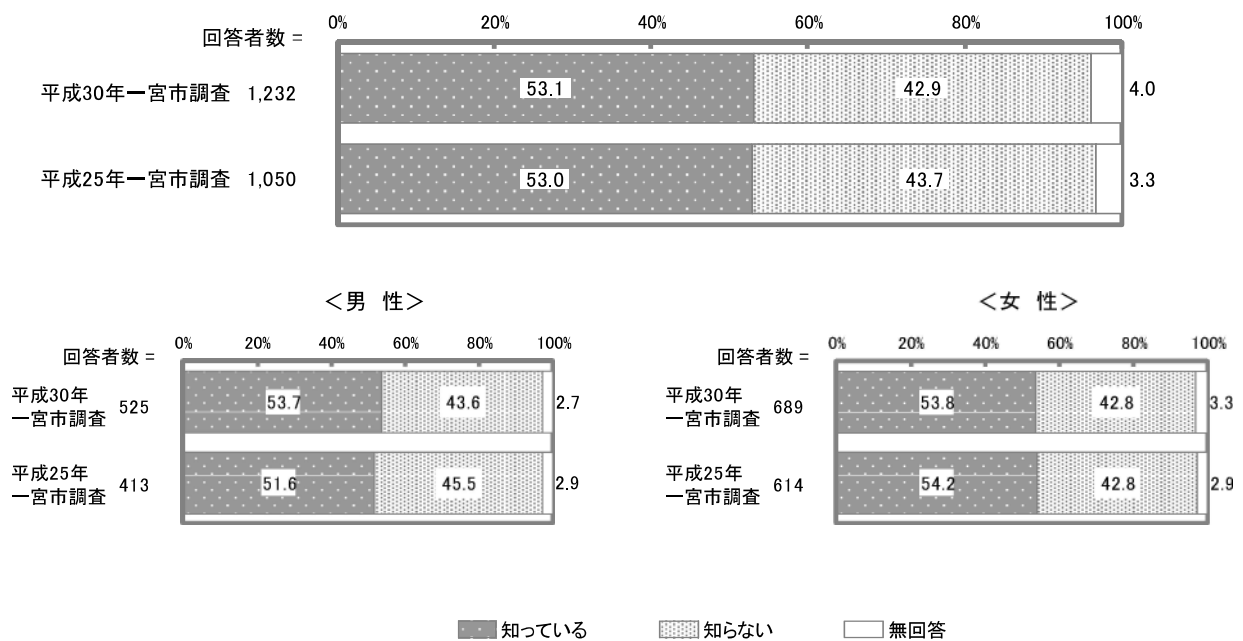
性・年代別では、他に比べ、40代の女性で「知っている」人が多く、7割台半ばとなっており、また同年代の男性より約17ポイント多くなっています。



平成 25 年の一宮市調査と比較すると、いずれの項目も大きな差異は見られません。

性別で平成 25 年の一宮市調査と比較すると、いずれの項目も大きな差異は見られません。

D V相談窓口の認知度



ポイント

- DVに関する基礎的な知識は、市民に浸透しています。
- DVに関する相談窓口については、女性の若年層の認知度が他の年代に比べて低くなっており、より一層周知が必要となっています。